

タイトル	北海道大学附属図書館蔵 二巻本『宝物集』翻刻
著者	追塩，千尋
引用	北海学園大学人文論集，32：A1-A79
発行日	2005-11-30

北海道大学附属図書館蔵 二巻本『宝物集』翻刻

追 塩 千 尋

北海道説話文学研究会

宝物集・翻刻について

北海道大学附属図書館蔵『宝物集』を翻刻するにあたって、その経緯を一言述べておく。

翻刻の責任の所在を追塩千尋・北海道説話文学研究会の名で記してあるが、この翻刻の始発となったのは、北海道教育大学名誉教授小泉弘氏の原稿である。

北海道説話文学研究会では、昭和六十二年の第六回大会（釧路）で『宝物集』を研究テーマにすることが決まった（『史料と研究』第十九号〈平成元年〉・彙報）。その後、いろいろな検討を加えて、具体化した案は二巻本の校本作成であった。具体的には、その時点で既に北大図書館本『宝物集』の小泉弘氏の原稿があり、そのコピー原稿をもとに二巻本の校本を作成してい

くことになった。諸本を大きく四つに分け、底本とする北大本には国会図書館蔵本（上野本）を対校してその異同を傍記、他の三グループは別に校異表の形で示すものである。

その校本の草稿は、平成七年には形を成していた。しかし、上岡勇司氏、高橋伸幸氏の相次ぐ急逝など諸般の事情により、それ以降、研究会での『宝物集』の研究の進展はなかった。

その後、いくつかの議論を経て、平成十三年からもう一度『宝物集』の翻刻に取り組むことになり、小泉氏の原稿を参考にしつつも、新たに私ども三名（追塩・林晃平・細田季男）で翻刻し、点検をするという作業を行った。また、不明の箇所については直接原本にあたって確認し、その様態を補記し、原稿を確定した。

また、既にこの翻刻本文を将来デジタル化して利用の便をは

かることも考えている。さらに、読みやすい形に整理した本文も作成している。これも近い機会に公にし、『宝物集』研究の便に供したいと考えている。

もとより、この研究の始発には、小泉氏の原稿があり、それを礎稿にして校本も作成してきたわけであり、この翻刻刊行もその延長上にある。ゆえに翻刻の経緯をここに記し、これまでの北海道説話文学研究会の会員諸氏に謝意を表するものである。

また、貴重な図書の閲覧及び翻刻の許可を賜った北海道大学附属図書館にも謝意を表する。
(文責・林)

北海道大学付属図書館蔵 二巻本宝物集 翻刻

書誌

北海道大学図書館で設えたと思われる帙には、左外題で「二巻本宝物集 慶長頃書写 二冊」とある。整理番号は「294.32 H10」。外題は表紙中央に貼題簽で「宝物集 上(下)」。題簽の右に、二冊とも直接「南哥八」と朱で書かれている。上下とも見返しに「北海道大学印」がある他、同じく上下とも末尾に古書肆反町弘文荘の印「月明荘」。購入時期は、同大学附属図書館

によれば、昭和二十四年末から二十五年初めという。表紙は藍染の繊維を全面に漉き込んだ「藍漉込み紙」というべきものである。装丁は袋とじて、料紙は楮紙。寸法は縦三〇・一cm、横二二・五cm。字高縦二四・七cm、横一七・五cm。紙数上五十四丁、下六十六丁で、共に内遊紙一丁ずつ。本文は一面十行。外題、内題、本文、書き入れ(墨・朱)ともすべて同筆と思われる。すべての句点が朱で施されているが、翻刻には反映しなかった。他にも、朱引き(いわゆる「右所、中は人の名、左官、中二は書の名、左二は年号」)が施されている。
(文責 細田)

凡例

- 1 底本は北海道大学附属図書館蔵写本とする。
- 2 改行など行配り、一行あたりの字数も底本のままとする。行頭に算用数字で行数を記した。
- 3 本文及び振り仮名の濁点もそのままとした。
- 4 翻刻に際しては、常用漢字表にある漢字はその字体を使用した。異体字・俗字も一部の例外を除いて、現在通用の字体に改めた。
- 5 踊り字は、想定される字句に改めた。これは、電子化した

場合の、検索の便宜を考えてのことである。

6 ミセケチなど訂正のある部分は、訂正後の本文を採用した。

7 行の補入は「」で示す。

8 書写者は「菩薩」を一貫して「菩提」の省文「井」の字で表記しているので、「井」は「菩薩」で翻刻した。なお、「菩提」はすべて「菩提」のみとあり、また「菩薩」の省文「サ」は本文中一度も使用されていない。

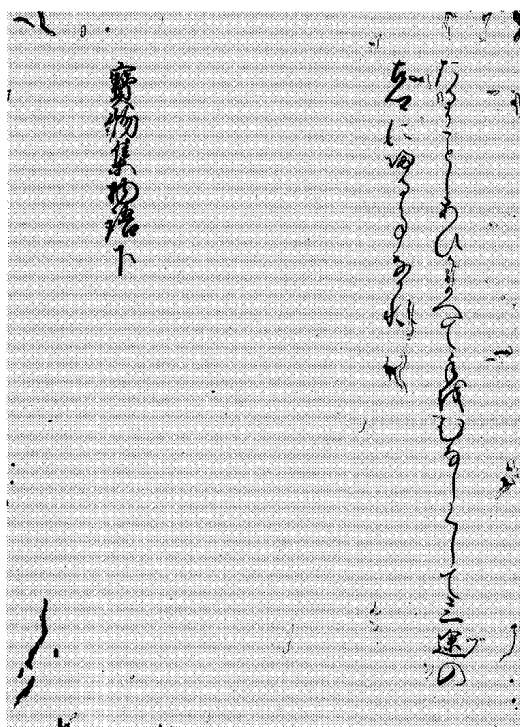
9 6 及び書き入れなどの詳細は、後ろの注に一括して記す。

10 印刷の字数の都合上、原文の一行が二行になった個所がある。その個所が歌の場合、原文では書き出しが一字下げであることを踏まえ、二行目も一字下げにして揃えた。

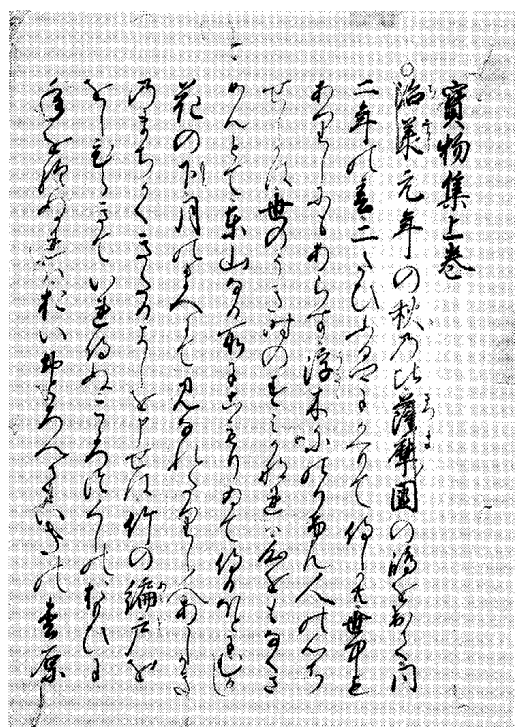
（文責 細田）



上巻表紙



下巻65才



上巻1才

【北大本宝物集 翻刻】

宝物集上巻

上1才

1 宝物集上巻

2 治承元年の秋の比薩摩ノ国の嶋を出て同

3 二年の春二たひふる郷にかへりて侍しか共世中も

4 ありしにもあらず浮木にのりけん人の心ち

5 せしかは世のうき時のすみかなれは心をもなくさ

6 めんとて東山なる所にこもりゐて侍るほとにむかし

7 花の下のまへにて見なれたりし人あしかき

8 のまちかくきたるよしを申せは竹の編戸を

9 をしひらきていれ侍ぬころつくしのおもひに

10 年を経ぬれはおいおとろへていきの松原

上1ウ

1 いきてかひなき命なからへて来りぬるよしを申

2 たりし三とせの夢わつかにさめたりといへと

3 も一生涯の夢はいまたさめさりける程に

4 人にもしられて侍つるにいかにしてたつねては

5 来り給へるそ鬼界の嶋の分野は申ても
6 むやくに侍るへし古郷の事風の伝にても
7 聞たて侍りき都を出て後いかなる事か侍
8 りしと申せは何となく春のつれつれをなくさ
9 めんと思ひていたつら事とも申いて侍つるに
10 けにや嵯峨の御釈迦こそ天竺へ帰たまはん

上2才

1 すると一ツ京の入院ノ宮をはしめまいらせて道
2 もさりやらす参り侍るなれと申せは我日本の
3 不思議には此仏のおはするをこそしためるにまこ
4 とならは心うき事そかなしくそ侍るへきさなし
5 とてもまいらてもや有へきとおもへはやかて二月
6 廿日比に中御門をとをりておほはのむくの木
7 本を見るにも白馬の節会思ひいたされけりさて
8 御たうにまいりつきて見ければきくにたかはすお
9 ほくの人まいりあつまりて稲麻竹葦のやうなり
10 西のつほねのうちへいりて南無大恩教主釈迦

上2ウ

- 1 牟尼無上大覺世尊滅罪生善臨終正念とふ
- 2 しおかみて法花経のひもとときよみ侍る程に寺
- 3 僧とおほしきものとなりの局なる人にかたるをき
- 4 けは此仏の日本国へつたはり給へる事とききな
- 5 しつ教主釈尊正覚成給ひてのち御母伽毘
- 6 羅国の善覚長者のむすめ摩耶夫人の為に報
- 7 恩経とき給はんとて忉利天にのほり給ひしを優闍
- 8 大王のあなかしこにこひたてまつり給ひて毘首羯磨と
- 9 いふ人にあつらへて赤梅檀をもつて尊容をうつし
- 10 奉りておかみ給ふ程に仏忉利天より一夏九旬

上3オ

- 1 はてて祇園精舎へ帰り給ふ時地藏菩薩の金銀水
- 2 精の三の橋を渡し給ひしに此木像の仏も橋の
- 3 もとまで御むかひにまいり給ひければ釈尊の
- 4 たまはく我は八十年の化縁つきて涅槃に入へき
- 5 なり梅檀の仏は末代の衆生を利益し給ふへ
- 6 き仏なりとて御さきにたててかへり給ひき天竺
- 7 にておほくの人を利益し給ひし程に弗舎蜜

上3ウ

- 8 と申悪王仏法をほろほし奉りし時鳩摩羅
- 9 琰といひし大臣の出家入道してかばかりめてた
- 10 くおはします仏をほろほし奉らん事をかなしみ

上4オ

- 1 て東天竺の東に丘慈国といふ国へ渡し奉りける
- 2 に昼は仏を負奉り夜は仏にをはれ奉りけるそ
- 3 と申たんめる丘慈国のもうそん王あなかに
- 4 よろこひてくやうくきやうし給ひける程に唐
- 5 のはくそん王此事をききて普闍といふ將軍を遣
- 6 して奪取てあかめをこなひ給ひけるを東大寺の
- 7 齋然上人入唐してありしに帝王此仏を聖人
- 8 におかませ給ひければ齋然申ていはく我一人おか
- 9 み奉りてかひなく侍れば仏をうつし奉りて日本
- 10 国王におかませ奉らんと申ければ仏像をひ
- 1 ろめんか為にゆるされにけり齋然よろこひていそ
- 2 きうつし奉る程に梅檀の仏夢の中につけての
- 3 たまはく我東土の衆生を利益すへき願有我

4 渡すへしとのたまひければ齋然心つきて新
 5 仏をふるき仏のやうに煙をもつてふすべたてま
 6 つりて梅檀の像にとりかへて日本国へ渡し奉
 7 りける仏なりさては二傳の仏にてはおはせざるなり
 8 齋然帰朝して宇治殿へ申奉たる文には優闡王の
 9 赤梅檀をもつてうつしまいらせ給ひつる釈迦の
 10 像一体とそ侍る又白鈍王といふ王の名も不審

上4ウ

1 なりふけんといふ王呂光といふ將軍を遣して
 2 取たりと見ゆる物も侍り又ちやうけん等の將軍
 3 をは八十人をやると申たるも侍り大江の匡衡かの
 4 六波羅蜜寺にて昔忉利天安居九十日刻赤梅檀而模尊
 5 容
 6 今拔提河滅度二千年治紫磨
 7 金而礼兩足と書たるも此仏の御事そかしと思
 8 出られてあはれなりなきの上人のほめられける
 9 もことはりにそ侍るやかて帰るも木の下にて日暮
 10 向けは道もおそろしかりぬへしあけてこそ下
 向せめとて侍る程によひの間はまいりあつまり

5上オ

1 たる人ともものしりさはひて物のあはれもさむる
 2 程なりしかやうやうふけゆくままにあやしもの
 3 下守老たる尼法師は寝入たるなるへしものの心
 4 ある人々はかり目をさましつつかしかた行末の事
 5 まてかたる程にあまり物をいひはやりてある人の
 6 いへるは抑人の身には何か第一のたからにてあら
 7 むといへはそばよりさし出ていふやう人の身には
 8 かくれみのといふ物こそ第一のたからなれくい物ほ
 9 しきもの心にまかせてとりかくしていはん事を
 10 もきく又ゆかしからん人のかくれんをも見るへき物

上5ウ

1 なりこれ程のたからやはあるといへはそばより人出
 2 て物をねかはんにいかて人の物をとらんとは申へき
 3 それはぬす人にてこそあれ龍樹菩提の陰形の
 4 法そあらはれて下法をすてて菩提の行にお
 5 もむきて馬鳴の弟子に成給ひにきされは有人
 6 ふたりつれて道をゆくにこかねを見つけないから
 7 これをとらずともしたるものの何とてこれをは

8 とり給はぬそといへは天しる地しる汝しる我しれり
 9 ぬしにしらぬ物をはいかてかとるへきとてつゐに
 10 とらす四知をはつるとはこれをいふなりかしこき

上6才

1 人は人のあたふる物なれともとるましき物はとらす
 2 されはうちてのこづちといふ物こそいみじきたから
 3 なれひろき野に出てすみよからむ家つかひよからむ
 4 下べ馬牛くひ物にいたるまでうちいたすなりこれ
 5 こそ人の物をもとらずめてたきたからなれといへは又
 6 そばよりうちてのこづちはたかなれともくちおしき
 7 こと一つありそのゆへは鐘のこゑをだにきけはうち
 8 出したる物ともこそそとうすることのあるなりさやう
 9 の時ひろき野中にたたひとりあかはだかにてゐた
 10 らんはいと物うかるへき事なり貧苦よりもおと

上6ウ

1 ろへたるくるしみはたへかたきなりされは天人の五
 2 衰は地獄のくるしみにまさると申せは無益にて侍
 3 るへし又昔よりかくれ衰うちでのこづち持たりと

4 申物きこえ侍らすかくれ衰の少将と申物語にあら
 5 まし事をつくりて侍るところうけたまはれたた金に
 6 過たるたからなし火にいれともやけす水にいれ
 7 ともくちせすいよいよひかりをます物なり千両のこ
 8 かねとていみじくきこゆれともちいさき物に入てみ
 9 にそへてもちぬへしされは天平勝宝廿一年の春
 10 むつの国より砂金はしめて奉りたりしに我

上7才

1 君も国におほきなるてうほうまいりたりとて大伴
 2 のやかもちに歌めされけるに
 3 すへらきの御代さかへんとあつまなるみちのく山にこか
 ね花さく

4 とはよみけれ天に五行有金其中二至る地に七宝
 5 あり金をもつてはしめとせり仏を金人と申御門
 6 を金輪聖王と名つく神を金峯山おはす経に
 7 金光明経あり仏もこれを宝と思ひ給へり智者
 8 もこれを宝といふ金の宝なるゆへにをの金の
 9 字を具するなりと申せは又そはなる人さし出て金
 10 はまことに火にもやけず水にもくちせねともぬす

上 7 ウ

- 1 人にとれてはいたつら事也天竺にて仏阿難をく
- 2 して道をとをり給ふに草むらの中に光ありその
- 3 中にこかねありこれを仏御らんして毒蛇ありとの
- 4 たまふ阿難これをさととりて大毒蛇なりとうけこひ
- 5 給ひぬある人これを見れば蛇にあらてこかねありけ
- 6 れはよろこひてとりぬ此事をおほやけきこしめさ
- 7 れてめしければちからをよはすこれをまいらせけるに
- 8 なをものこりそあるらんとてせめをかうふる時にこそ
- 9 仏の毒蛇とのたまひし事をおもひあはせける又ある
- 10 兄弟おやのてよりをのをの五百両のこかねをえて

上 8 才

- 1 かへる道にておととかのこかねをすてけるを兄何ゆへに
- 2 すつるそととひければをとなくなくかたりていはく
- 3 五百両のこかねをもちたるゆへに兄のもち給へる五
- 4 百両をうばひとりて千両になさばやと思ふ一ねん
- 5 おこりぬされはこかねはうたてき物とおもふがゆへに
- 6 すつるなりといひければ兄なみたをなかにして我も
- 7 なんちをころして五百両をととりて千両になさは

上 8 ウ

- 8 やと思ひつるなりとて五百両のこかねをすてにけり
- 9 これを断金の契りといふなりされはこかねをも
- 10 たからといふへからす玉にまされるたからやはあるへき

上 9 才

- 1 花嚴経には一切のたからの中に如意宝珠すくれ
- 2 たりと見えたりまことに心のことなる玉をえては
- 3 五こく七宝なにかとほしかるへきされは稲麻経には
- 4 現世をいのるはわらぢをこふるかことし後世をいのるは
- 5 いねをこふることしといふなりいねをえつればねか
- 6 はざれともわらぢをははくへきもの也又玉をうれば
- 7 ねかはされともこかねはふるへきなりといへはまたそ
- 8 ばなる人のいはく玉はたからなりといへともす葱の凡
- 9 夫は玉をたからともしるへからすことにみがくやうを
- 10 もしらすされは弘法大師は玉みがかされは光なしひかり
- 1 なきをは石かはらとすとそおほせられけるされはい
- 2 つれのたからもむやくなりつくつく物を思ふに子に
- 3 過たるたからなしそのゆへは人のおひおとろふる

4 事貴賤賢愚によらすくろき髪はしろくなり
 5 あかきいろはくろみかじてひたいには四海のなみ
 6 をたたみまゆにはしやうざんの霜をたれ骨こはく
 7 こしかかまりてあまきあちはひはにかくなりやはら
 8 かなる水はこはくなりてよろつ心になはすき
 9 れは太天わうははしめてしろきかみすちのおふ
 10 るは閻魔王の一番のつかいつきたりとて出家

上9ウ

1 しておこなひ給ひき震旦の白居易は四十六のとし
 2 かたちをかかみにうつして涙をなかにふたをおほひ
 3 き又大聖世尊の五十あまりに成給ひて満月ノ尊
 4 容おとろへ三十二相の御すかたやつれ給ふを見た
 5 てまつりて優陀延と申御弟子のおひのくるしみを
 6 なけく事侍りきいはんや末代の凡夫いかてか此くる
 7 しみをなけかざらんやされは此心を詩にもつくり歌
 8 にもよめりそのせうこを申へし昔は京洛のはなやかな
 9 る客たり今は江湖のおちふれたる翁となれりと
 10 つくりたりまた歌に

上10オ

1 いつかたに身をはよせまし世中に老をいとはぬ人もなけ
 2 れは
 3 かはり行かかみの影を見るからにおひその森のなけきを
 4 そする
 5 ずっととも身のうき事はかへらねと昔は老をなけきやは
 6 せし

上10ウ

4 まことにおひのすかたふりにけるかたちをは見る人これ
 5 をにくみきく人かれをいとふなり子にあらさん人たれか
 6 あはれむへき人の子のおやのためにたからなる事かつ
 7 かつ申へし孟宗といつし人のおやとしおひおとろへ
 8 て物くはざる病をしけるか霜月のすゑしはすのをよ
 9 ふ折ふしたかんなにあらは物くいてんとねかいければたけ
 10 のこといふ物は四月のすゑ五月のはしめはかりにこそ見
 1 ゆれ今は竹のはやしには霜ふり雪つもりていかに
 2 もとむるともえんことかたしとはおもひながら孝養の心さ
 3 しふかき物なれは雪霜をかきわけて竹のねこと
 4 をほりもとめしかは雪の中のかんなをえて老た

5 るおやのやまひをたすけ侍りき子にあらさん物い
6 かてか雪の中のたかなをもとむる事あらんや又伯瑜はくゆう
7 といふ人の母きはめてはらあしく心たけくして伯瑜
8 をうつ事いとけなかりし昔よりせいしんの今にいたるま
9 てをこたる事なし母やうやうおひおとろへて又子をう
10 ちける時伯瑜かなしめり母あやしみてなんちをうつ事

上 11 才

1 むかしより今にいたるまでたゆる事なし然とも一
2 たひもなく事なかりしに何とて今はしめてなきかなし
3 むそとといければ伯瑜はくゆうはいはくわか母のわかきかりにお
4 はしましつる時のつえは身にしみていたかりきことし
5 はおいおとろへ給ひたるにや打給ふつえ身にしみ
6 いたむことなしされはわか母のよめいすくなく成給へ
7 る事のかなしき也まつたくつえのいたきになくには
8 あらすとそいひけるこれのみならず丁蘭ていらんか木郭巨きくわつきよ
9 かこかねのなへ白年かふすま王祥わうしやうか氷こほりの魚うほみなこ
10 れ教養けうやうの事なり丁蘭は母うせてのち母のかたち

上 11 ウ

1 を木をもつてきさみいきたりし時のやうにつかへし
2 なり郭巨くわつきよはおやをやしなはんかためになしかりける
3 子を山の中にうつみしほとにてんたうあはれみたまひ
4 て金のなべをほりいだす事ありしなり白年かおや
5 はさむかるらんとて寒夜かんやにふすまをぬきし事あり
6 王祥かおやはみききせぬうほなければ物をくわぬ事を
7 かなしみてこほりふさかりたる江えにまかりて見れは
8 うほこほりをつきうかちてをどりあがりしなりかやう
9 の事はこまかに蒙求もうきうなどやうの文にしるせりこれらは
10 みな大国こくの事吾朝わかつうにもかやうの事おほくきこえたり

上 12 才

1 輕かるノ大臣と申しける人御門よりの御つかいにもろこしへわ
たり
2 給ひけるをいかなる事か有けん物いはぬくすりをくわせ
3 て身にはゑをかきかしらにはとうだいといふ物をうち
4 て火をとほして灯台鬼といふ名をつけてありと
5 いふ事を御子の彌すけの宰相さいしやうと申人のほのかにつたへき
6 きてかなしみ給ひて万里ばんりの波路なみちをしるきて震旦しんだん

7 まてたつね行て見給ひければ大臣涙をなかしめて
 8 びをくひきりて血を出してかくぞかきたまひける
 9 形は破て他郷の灯の鬼となる争か旧里にかへり
 10 てこの身をすてん

上12ウ

1 これを見たまひけん御子の心のうちいかばかりか思ひ
 2 給ひけんさて唐の御門にこいうけたてまつりて日本
 3 へぐしたてまつりてかへり給へり子にあらさん人はるは
 4 る
 5 の海路をわけてもろこしまてたつね行人有なん
 6 や此外もろこしへ渡りてとめられし人あまたあり
 7 けりとなん又ある女の僧をしやうじまいらせてかたの
 8 ことくなる仏事をして手箱をひとつふせにしたりける
 9 を見ればかくぞよみていれたりける
 10 玉くしけかけごにちりもすへさりしふたおやなからなき
 身とをしれ
 10 されはかなはぬ人もおやの教養の心さしはふかくそ侍り

上13オ

1 けるそれならすおやに心さしふかく見ゆる人をうた
 2 にて少少申へし藤原のみちのふの卿のうた
 3 かきりあればけふぬきすてつ藤衣はてなき物は涙也けり
 4 たいらのむねなかの卿の歌
 5 思ひかねかたみにそめし墨染の衣にさへもわかれぬる哉
 6 みなもとのありつねの中將の歌
 7 藤衣なと一とせと契けんこれはかりこそかたみと思ふに
 8 中納言なりのりの卿の歌
 9 鳥部山思ひやるこそかなしけれひとりや苺の下に行らん
 10 むかしいまの人人かやうに心さしふかくなげきかなし

上13ウ

1 む事も子にあらさん人のたれかおもひよるへきさ
 2 れは子なからん人は物うき事なり後の世までもた
 3 からとなるは子にそ有へきしんの良郭といふ人
 4 と阿用子といふものと二人死して閻魔王宮に
 5 めしをかれてつみのきやうぢうをたたされけるに良
 6 郭は子をもちたり冥土をとふらふへきもの有と
 7 てまつさしをかれ阿用子はとふらはるへき子をもた

8 さるものなりとてたちまちに地こくへつかはされ
9 にき又仏阿難をくして道を行給ふにあさまし
10 き餓鬼の心ちよげにて舞たのしむあり阿難

上14才

1 仏にゆへをといたてまつり給へは仏阿難につけての
2 たまはく前生の罪業によりてあさましき餓鬼の
3 むくひをうけたりといへともうむところの子の善を
4 しゆするかゆへにたのしみをうくるそとのたまひけり
5 しかのみならず大もくれんそんしやは母の精提女の
6 餓鬼道におち給ひしかは僧衆を請し供養
7 し給ひしくりきによりて母のうへをたすけ給
8 ひきこれは孟蘭盆経にこまかに見えたりとい
9 ひければ又そはなる人のこゑにて子程のたからなし
10 とのたまへとも人ことに教養の心さし侍らす人の

上14ウ

1 子のおやのためにかたきなる事を少少申へし
2 仲文章と申文に見えたりてうほといふもの父を
3 うちしかは毒蛇その身をすふゆうむといふもの母を

4 のりしかは天のなるかみおちて其身をさくまた
5 摩伽陀国の阿闍世王のいまた太子にしておはし
6 ましける時父の頻婆沙羅王をほしころしたて
7 まつりて御位をとらむとてろうにこめ給ひければ
8 御母のいたいけふにんかなしみ給ひてやうらくに蜜
9 といふ物をぬりてしのひて大わうになめさせたてま
10 たり給ふよしを太子きき給ひてはやくほしころさんと

上15才

1 する父の命をたすけたりとてつるきをぬき給ひて
2 いたいけをころさんとし給ひければ耆婆月光といふ
3 二人の大臣の太子に申やう父をころすものはおよそ
4 一万八千人なり母をころすものはいまたききもをよ
5 はす母の御命をたすけ給はすは二人の大臣つかへた
6 てまつらしと制しければ母の御命はかりたすけ給
7 ひぬ父の王をはつゐにほしころし給ひにけり
8 又貧苦なるものは子をやしなひかねてかなしむ
9 のみならずあるひはいとけなき子をすてをきて
10 めいとにをもむく時は心くるしくはなれかたき事

上15ウ

- 1 をなけきかなしむ臨終りんじゆうのさまたけとならずやされは
- 2 第六天だくせんの魔王まわうは一切衆生しゆじやうの仏道ぶつだうならむ事をさまた
- 3 けんとて妻子さいしとなると申ぬれはかたきと申もひか
- 4 事にあらずごうが河がはのほとりにたんごんなる女一人
- 5 なきかなしめる事あり阿難なん仏に此ゆへをとひたて
- 6 まつり給へは仏のたまはく此女かたちはうるはしくう
- 7 つくしけれともうむところの子罪つみをつくるかゆへに
- 8 母つみにしつみてくるしむそとおほせられけりされは
- 9 子をたからとはろんずへからすた子もほしからす人の
- 10 身はいのちにすきたるたからなし仏寿量品けじゆりやうほんにいたり

上16オ

- 1 て久遠実成くゑんじつじやうをあらはし給へり命の長き事をとき
- 2 給ふなりかりに梅檀せんたんのけふりとのほり給ひしかとも
- 3 まことに靈山りやうぜんの月ほがらかなり此心を歌にて少々申
- 4 へし藤原のもととしの歌
- 5 うら山し心のくもやはれぬらんわしのみ山にてる月をみ
- 6 張騫ちやうけんか漢武かんぶのつかひにてあまの河の水上をたつ

上16ウ

- 7 ねてかへれとおほせ有しにりうはくせいたつね行て
- 8 仙家せんかに入てやかてかへると思ひけれとも七世の孫にあ
- 9 ひし事も命のありしゆへなりこれも仙家せんかにてく
- 10 れなひの雪をくひむらさきの菊をのみしゆへに
- 1 いのちなかりしなりされは堀河の右大臣の歌
- 2 あふまてとせめて命のおしけれは恋こそ人のいのち成けれ

上17オ

- 3 まことにいのちはたれもおしき物なれば命こそたから
- 4 にてありけれといひけれは又そよりすこしなまり
- 5 たるこゑにて命をたからとのたまへとも老少不定らうせうふぢやう
- 6 のならひなれば命もまことのたからにあらすつらつら
- 7 思ふに仏法こそ有かたきたからなれとそ申けるかかり
- 8 ける折ふしにはなやかなる女のこゑにて抑おさ仏法ぶつぽうのたから
- 9 にて有らんにはれをちやうもんせばやといひけれはさ
- 10 きのこゑなまりたる僧のいはく三宝ぼうとて仏法僧ぶつぽうそうの
- 1 三あり此いはれを一代教主たいけうしゆしや釈迦如来しやくかによらいのとかせ給ひぬ

2 れは愚僧はしめて申ぎにあらす天竺に国王おはしまし
 3 き名をは普安大王と申きとなりの国に四人の国王
 4 のおはしますかをろかなる事をかなしみて方便をも
 5 つてをしへられたり四人の国王をむかへて山海
 6 の珍物をとのへ玉のさかつきにてゑいをすすめ給
 7 ふついでに普安大王のたまへるは抑四人の国王
 8 何事をかこのみおほしめすととひ給ひければをのを
 9 心うちとけ給ひて一人の王は我つねに国王の位に
 10 て大臣公卿にいねうせられ百姓万民にあふかれてあ

上17ウ

1 らまほしとそのたまひける一人の王はつねに父母六親
 2 眷属にそひてたちゐのすがたを見えはやとお
 3 もふなりとのたまふ一人の王はわれつねにかたちよき
 4 人にむつひてあけくれたはふれあそひてあら
 5 まほしとその給ひける一人の王はわれつねに春
 6 の野に出て花を見こまつを引てあそはんと
 7 思ふとの給ひけるをのをかやうにのたまひて後
 8 して普安大王は何事をかこのみおほしめすとあり
 9 ければ普安大王こたへての給ふ我は十善のくらゐ

10 に居てたのしむ事はめてたけれども妻子珍

上18オ

1 宝王位は後の世まで身にしたかひつく事なし父母
 2 六親けむそくにあひそひて教養の心さしをいた
 3 さはやとはおもへとも生死無常心になふへからす
 4 またかたちよき人にもそひはつる事あるへからす
 5 されはあしたには紅顔ありて世路にほこれも暮
 6 には白骨となりて郊原に朽ぬといふ本文ありま
 7 ことにいままたわかくさかりなる時はこうかんすいたいはな
 や

上18ウ

1 春ととまらずたたしはしの興なるへしたたわかために
 2 生生世世までたからとなれるかゆへに仏法といふ物こそ
 3 しんかうししゆきやうして侍れとのたまひければ四人
 4 の王普安大王のこと葉をかんし給ひてやかて

5 仏の御もとへまいり給へるこまかに五王経にとき
6 給へりまことよろつのためにはあふ事ありといへと
7 も仏法のたからにあふ事のかたきなりされは法花
8 経にも一百八十劫空過無有仏三惡道增長阿修羅
9 亦盛この経文の心は一百八十劫むなくすきてのち
10 は仏まします事なし惡道いよいよ増長して阿修

上19才

1 羅といふ外道さかりなるへしと也またいはく無量無數
2 劫聞是法亦難能聽是法者此人亦復難この文のこころ
3 は無量無數劫にも此法をきく事かたしきかんものは
4 此人またかたしとき給へるなりされは顯蜜の聖教
5 八宗にわかれて経論およそ五千三百十二卷なり
6 舍利弗ノ智恵富楼那ノ弁舌なをしおふところにあ
7 らすいはんや凡夫のわれらにをひてをやいかてかの
8 へ侍るへきしかりといへともる中山寺にしはし侍りしか
9 勸学院のすすめのもうきうをさへつり七金山の鳥
10 にはきいろなるつばさのおふるなるやうにをのをの

上19ウ

1 うけ給ひしは諸行無常を觀するを仏法の大意
2 とは申とこそうけたまはれ大聖世尊四十余年の間
3 おほくの法をとき給へるにもみな諸行無常なりとこ
4 そとき給へされは金對般若經は一切有為法如夢
5 幻泡影如露亦如電応作如是觀この経文のこころは
6 一切のあるところのものはみな夢まほろしあはかけ
7 のことしつゆのことくまたいなつまのことしかくのことく
8 くわんすへし又出曜經には此日已過命即衰滅如
9 少水魚斯有何樂この文は今日すてにすぎぬ
10 命すなはちめつしてすくなき水のうほのことしこれ

上20才

1 いつれのたのしみかあらんとなり又維摩經の十喻と
2 て十のたとへにも此身は水にやとれる月のことくいな
3 つまのことく夢のことしなと申たればはやく諸行無
4 常を觀して仏法のたからとおもひ給ふへきなり
5 されは維摩經の心を紀貫之かよめる
6 手にむすふ水にやとれる月影のあるかなきかの世にもす

む哉

7 又権僧正やうえんか歌に同経の心をよめる

8 長夜の夢のうちにて見る夢はいつれかうつついかかきた
めむ

9 されは諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅為楽と

10 観せん人はみな仏法のたからをまふくる也諸行無常は

上 20ウ

1 天にのほるはし是生滅法はいよくの海をわたる

2 舟生滅滅已はつるきの山をこゆる車寂滅為楽は八

3 相成道の仏果なり此ゆへに釈迦如来いんいの御時

4 雪山童子にておはしましけるにてんだいしやくの羅

5 刹といふ鬼にへんし給ひて諸行無常是生

6 滅法の二句をさつたてまつりし時童子のたまはく

7 此文にはいままたすゑの句有へしおなしくさつけ給へ

8 とおほせられければ羅刹のいはくさつたてまつる

9 へけれともうへにのそみてありわれは人のちを

10 すふ物なり童子の命をわれにあたへ給ははすゑの

上 21才

1 句をさつたてまつらんといへは童子のいはく命をあた

2 へたてまつりて後は何のもののさつかり候へき先末の二句
を

3 あたへ給へちやうもんして命をすつへしとのたまひし

4 時生滅滅已寂滅為楽の文をさつたてまつりぬ童子

5 此文を聴聞し給ひてすてにけはしき雪山の峯

6 より谷にむかひて身をなけ給ひし時羅刹御身を

7 うけとめまいらせて御身の心を見む為也命をすて

8 給ふへきにあらすとのたまひけりされは半偈に身

9 をなぐるといふ事は此因縁なり祇園精舎の鐘も此

10 文をとなへしなりいはんや蜉蝣のあたなる命にて

上 21ウ

1 いかか諸行無常を觀せさるへき羯鹿のはかなき身也

2 なんそ是生滅法をさとらさらむいつるいきは入いきを

3 またす石火の光りのうちにいくばくのたのしみ

4 かあらん天衆人王の位をうけたりといふとも何のゑ

5 きかあらんいはんやそのしたしたにをひてをや主に

6 つかへ人をたのみてかなはぬ世路をいとなみていたつ

7 らにおいおとろへて冥途の旅におもむかん事あさ

8 ましき事也かしこき人はみな過去遠遠を流転を

- 9 観して名利をはもとめぬ事也されは許由といつ
10 しものは位に即へきよしを聞聞て潁川といふ河

上22才

- 1 にて耳をあらひしかは巢父といふもの此よしを聞て
2 其河のなかれをきらひし也これみな諸行無常を
3 観するゆへなり無言太子の十年物をいはす別成
4 太子の七度まで位を辞し給ひしも是生滅法
5 をさとり給へるゆへなりされは莊周といつし人の
6 夢に百年の間小蝶に成て花の上にすみけるかお
7 とろきて夢かうつつかとわきかねてそありける此心
8 を大江のまさふさの卿の歌に

- 9 百年は花にやとりてすこしてき此世は蝶の夢にそ有ける
10 これならす心ある人は此世をはさらにうつつとはおもはさ

上22ウ

- 1 るなり大江のまさひらの歌に
2 夜もすから昔の事をみつる哉かたるやうつつありしよや
夢

- 3 むかし天竺の国王我国のうちに仏法を信せんもの

- 4 をは命をたつへしといふ宣旨をなしたまひけるにた
5 に五百人の中の第一きさき一人命を王にたてま
6 つりて仏法をあかめ給ひきこれ又諸行無常を
7 観して後の世をなけき給へるゆへなりされはあさ
8 ましき穢土に心をとめて後の世をいとはさるものは
9 たてはむ虫のかんろのあぢわひの有事をしらさるかこ
10 としまことに井の中のかいるの大海のひろきをさとらさる

上23才

- 1 ににたり五こんのあたる身はたのしみありてもひ
2 さしからす霜露のはかなき命はさかへありとてもい
3 くはくならんいはんやあるにつけてもうれへなきに
4 付てもうれへ一生はつくれとものそみはさらにつき
5 せさる物なり返返生死に着する事なかれここをもつ
6 て弘法大師は三考識といふものにおほきにたのしみ
7 おほきにわらふはおほきおとろへおほきになしむへ
8 きさうなりと書給へりされは正法念経には智者は
9 これゑをふくみてろうごくのうちにこまれるかとし
10 愚者はよろこびをひらいてくわうおんでんにむまれた

上 23 ウ

- 1 るかことしとはとき給へりしかのみならずこころある人は
みな
- 2 めいとくるしみをかなしみて娑婆しやばのたのしみをはいと
- 3 ひ思ふなりもうけつりつしは地こくのくるしみをひたんせ
しか
- 4 は毛のあなことよりちの出し也昔シしやうぐわの羅漢らかん一日
- 5 に衣を三たひあらひ給ひけるを弟子あやしみてゆへ
- 6 をとひければそれもちこくにありし事を思ひ出す
- 7 にちの出て衣のけかるなりとそのたまひける一生しやうは
- 8 過やすし万事は夢のことし年月はいる矢のことく
- 9 くれゆくなりこれを隙ゆく駒ひつしのあゆみにたと
- 10 ふるなりされは心ある人はかくそよめる藤原ののり

上 24 オ

- 1 長の歌
- 2 山のはにかくれなはてそ秋の月此世にたにもやみはまと
はし
- 3 神祇伯しんきはくあきなかのむすめの歌
- 4 この世たに月まつ程はくるしきにあはれいかなるやみに

まよはん

- 5 よみ人しらさる哥
- 6 長き世のくるしき事を思へかし何なけくらんかりのやと
りを
- 7 仏ヶ譬喻經ひゆきやうにとき給ふたとへは人ふたり道を行とて
- 8 あらまし事にひとりかいはくたいたいまもちひをみつひ
- 9 ろいたらんにいかかせんするといへは今ひとりかいはく
- 10 ひとつつくひてのこる一つを中よりわりてこそくわめ

上 24 ウ

- 1 といへはもとめたる物こそふたつはくわめといふ今一人は
お
- 2 なし道をおなしやうに行はおなしきにこそくわめと論
- 3 してなきもちひゆへあらそひける濁世ちやくせ末代まつたいの衆生しゆしやうは
- 4 このやうになき福祐をあらそひて万人といさかひ
- 5 論ろんする也しやうしやひつすい生者必滅しやうしやひつすいとてむまるるものはかならず死す
- 6 るなり盛者しやうしやひつすい必衰とてきかりなるものはかならずをとろ
- 7 るなり生あるものも生なきものもそのまま常住じやうじゆ
- 8 なる物なしここをもつて行基ぎやうき菩提ぼだいは浄土じやうどにあらさる外ほか
- 9 いつれのところか心にかなふ処ところあらん聖衆しやうしゆにあらざらん

10 ほかたれか思ひにしたかふ人あらんとのたまひし也はやく

上 25 オ

1 この心にたかはす浄土じやうどをねかひ聖衆しやうじゆのたすけを頼み
 2 給ふへきなり人界にむまるる事は大海のそこにはりを
 3 しつめて八万由旬ゆじゆんの須弥山のいたたきより糸をくた
 4 してはりのみみをとをさんよりもなをまれなる事也
 5 仏法にちかつく事は一眼がんの亀かめの浮木にのほれるかこ
 6 とし此たび仏法をまうけずは又いつれの時をか
 7 ごせんはやく頭燃とてかしらに火のつきたるをはらふ
 8 かことくいとなみてあすをまつ事なく修行しゆぎやうし給ふへし
 9 されば心ある人はかくそよめる待賢門院の兵衛か歌
 10 いつまてと長閑のとかに物を思ふらん時の間まをたにしらぬ命に

上 25 ウ

1 唐太子賓客白楽天は人生れて百年をたもつと
 2 いへとも日の数をかそふれは三万六千日也その百年を
 3 たもつものは百人の中に一人もかたし老少不定らうせうふぢやうのさかい
 4 なれは命つきていつれの野辺のべいつれの山のふもと
 5 にかすてられて五体たいとところとにさんざいしてつ

6 ちあくたとならむすらんまことに今生こんしやうの身のはて

7 いかにもなけくへき事也されは清少納言せいせうなごんがまくらさ

8 うしに

9 思ひ出る時そかなしき世中はそら行雲のはてをしらねは
 10 又前さきの斎宮大夫か歌に

上 26 オ

1 きえはてん夢のわか身のをき所いつれの野への草葉成ら
 ん

2 これらの人はみな諸行無常を觀し仏法のたからを

3 まうくる人なり法花經はうへんの方便品けんろくたうしゆしやうに見六道衆生

4 貧窮無福恵ひんぐうむふくゑととき給へり此要文このようもんの心は六道

5 の衆生を見れば貧窮にして福恵なし国王大臣

6 もまつしき人也たた仏法を修行する人のみだからを

7 まうくるものなれは忉利天たうりてんの億千歳おくせんざいをたもつた

8 のしみも大梵王宮ぼんわうぐうの深禅定ふかくぜんぢやうのたのしみも仏法

9 を修行しゆぎやうせんにはしかし繩なわをむすひ木をきさみて物

10 のかすをさためしむかしたにも心ある人は花のちり

上 26 ウ

- 1 木の葉のおつるをみて飛花落葉を觀し生死ひくわらくさう ぐわん しやうじ
- 2 無常をはさとりけりいはんや欽明天皇の御代にさんめいてんわう
- 3 はしめて聖教此国へわたり上宮太子の御時よりしやうぐやう
- 4 仏法ひろまりて後心ある人はみな諸行無常なり
- 5 とするものは仏法の物かたりを人のすれは耳をおほみみ
- 6 いめをふさきてけつく仏法僧をあさむくなりこ
- 7 れみな無隙ちこくのすもりと成へき人也されはむけん
- 8 飛花落葉を觀したる歌仁和寺おむろのよみ給へるひくわらくさう ぐわん
- 9 はかなさをうらみもはてし桜花うき世はたれも心ならね
は
- 10 そかく法師か歌
- 上 27 オ
- 1 世のうさに秋の木のみもふかけれはおつる涙もみちし
にけり
- 2 とかやうにねんころにかたりければこの女かくうけ給候へ
は
- 3 まことに仏法はかりたから也いまより後は仏法をたから
- 4 とのみ思ひたてまつるへき也さても六道の御物かたり

上 27 ウ

- 5 のたまひつるはなになにを申にやととへは僧こたへて
- 6 いはく六道をしらぬ人や候へき今の世には五つ六つ
- 7 のおさなきものいやしき下らうなともみなしりたる也
- 8 しかれとも仏の御まへにてしりなからよもとひ給はし
- 9 とおもへはかつかつ申へし六道と申は地獄餓鬼畜生ちごく かきちくしやう
- 10 修羅人間天上これらを申なり無始生死しゆらにんげん むししやうじよりもろ
- 1 もろの仏の利益にもれて鳥のはやしをはな
- 2 れす車の庭にめくるかこくにして六道にちりん沈 論
- 3 するは仏法のたからをまうけさりしゆへなり法華經ほけきやう
- 4 に墜墮三惡道輪廻六趣中とのへ給へりこの心はついでさんあくたうりん ろうくしゆちう
- 5 三惡道におちて六趣に輪廻すとの給へるなりとしゆ りん
- 6 かたりければこの女地獄餓鬼畜生の有さまこそちごく かきちくしやう
- 7 きかまほしく候へといひければ六道の事は恵心僧都ゑしんそうづ
- 8 の一代聖教をひらひてえらひ給ひつる往生要たいしやうけう わうじやうよう
- 9 集と申物にこまかにしるされたりいまた見給はすしゆ
- 10 やをろをろ申へし第一に地獄といふは此閻浮提えんふだい

上
28
才

1 の下一千由旬ゆじゆんにあり等活とうくわつ黒繩衆合くろじゆしゆしゆあう叫喚けうわん大叫喚たいけうわん
 2 焦熱せうねつ大焦熱だいせうねつ阿鼻あび大城だいじやうなりこれを八大地獄はつだいじやくといふ
 3 なりこれにまたをのをの十六の別所べつしよをぐしたり惣そうして
 4 一百卅十六地獄なり此山さん中海ちゆうかい辺へんにも地獄じやくありとそ
 5 俱舎くしやと申文には見えたりまことにさるやらん越中
 6 国立山のちごくより近江あふみ国こく愛智あいちの大りやうと申も
 7 ののむすめか山臥さんふしに事つけておやのもとへ物申けるは
 8 おほかた地獄じやくのくるしみはたとへをとるとも百千万億の
 9 中に一も申のへかたしとそいひおこせけるされは仏も
 10 地獄じやくのくるしみをくわしくとるはきかん物みなちをは

上
28
ウ

1 きて死ぬへしとその給ひけるまつ地ちごくの有さまを
 2 いふに天には七重しちじゆうの網あみをはり地には鉄城てつじやうかたくとちた
 3 りねつてつきかんにして四面めんに刀林たうりんのやきはとくして
 4 阿防羅刹あほうらせつのいかれるすかた見るに心まとひ牛頭馬頭ごづめづ
 5 のはけしきこゑきくにきもをうしなふ天にあふけは
 6 つるきのはやしの葉ふりくたりてまなこをさしやふ
 7 る地にうつふせは猛火みやうくわもえ出て口くちに入なかつとすれば

8 涙おちすさけばんとすれともこゑ出す須臾刹那しゆゆせつな

9 の程もくるしみならぬ隙なしされは無隙むけんとはひま
 10 なしとかけり一日ならず二日ならず無量無数劫むりやうむしゆてうの間

上
29
才

1 くるしみをうく一種ならず二種ならず百千万のかなしみ
 2 しのびかたし阿鼻あび大城だいじやうのくるしみ中申ちゆうしんにをよはす
 3 さかさまにおつる事二千年なりちごくのふかき事は
 4 これにてしるへし此くるしみをうくる間は一中劫いちじやくなり
 5 一劫と申はたかさ四十里ひろさ四十里の石を三朱しゆ
 6 の天衣てんいとてきはめてかるき天の羽衣はころもにて三年に
 7 一たひつつなづるに紙かみ一まいのあつさほとつふるなり
 8 これをみななてつくしてある時を一劫いちじやくといふなり
 9 この間くけむをうけん事申も中中をろかなり
 10 されは金峯山きんぷざんの日蔵上人無言断食してをこ

上
29
ウ

1 なひけるあひたに秘密瑜伽ひみつゆぎやの鈴れいをにぎりながら
 2 死に入たりけるに地ちこくにて延喜えんきの帝みかどに相あひたてま
 3 つりければ御門のたまひけるは地獄じやくに来るものはかへ

4 事はなけれどもなんちはよみかへるへきものなり
 5 我父の寛平法皇の命をそむきたてまつる無実
 6 によつて菅原右大臣をなしたりし罪のむくひ
 7 にちこくにおちてくげんをうく此よしを我皇子に
 8 にかたりてこのくるしみをすくふへしとおほせけ
 9 れはかしこまりてうけ給けるを御門のたまひけるは
 10 ちこくにてはつみなきものをもつてあるしとす

上
30才

1 上人われをうやまふことなかれとおほせありけるこそ
 2 いとかなしくはおほえ侍りけりされはたかおかの親王
 3 かくそよみ給へる
 4 いふならくならくのそこにおちぬれはせつりもしゆたも
 5 かはらさりけり
 6 此歌おもひあはせられてあはれなりちこくのゑかき
 7 たるびやうぶを見て泉式部かよめる
 8 あさましやつるきの枝のたはむまでこはなにのみのなれ
 9 る成らん

8 第二にがきたうと申は無量のくげん隙なしといへと
 9 もとりわききさんのうれへしのひかたし得戸羅城の

10 かきは五百さいの間くい物をえすして子をうやし

上
30ウ

1 獅子国のかきは七とまで海の山に成かへるあひた
 2 くひもの名をきかすみつからなづきをくらいてうへをた
 3 すけあるひは子をくらいて命をつぐされは我夜
 4 生子随生皆自食ととける此経文のこころはわれ

5 よることに子をうむうむにしたかつてみなみつからく
 6 らふなりくわしく像法さう経にとけり木のみを見
 7 てとらんとすれはつるきとなり水を見てのまんと
 8 すれはほのほとなるはらの大なる事は大海のこと
 9 ししゆみせんをくらふともあくべからす口のせばき事は
 10 はりのあなのことしけしをのむとも入へからす経論には

上
31才

1 人間にもかきは有といへりびんぐうなる人をいへるか
 2 ゆうせい法師か歌によめる
 3 河をみてのめはほのほとなる物をいつくをさしてやせ渡
 4 るらん

4 第三に畜生道と申は残害のくるしみ忍ひかたし

5 大象地にたけれどもいまた獅子王のをそれを
6 まぬかれす毒龍海にわだかまれともなを金翅
7 鳥の難をはなれかたし雉はたかのためにとられ蛙
8 はくちなわの為にのまるねこのまへのねすみ
9 うのさきのうほいつれか残害をのかるへき長き
10 物はみしかきをのみ大なる物はちいさきをくらふしか

上
31
ウ

1 のみならずわしは羽の為にころされとらはかはの為
2 に命をうしなふ但念水草のたくひはをもきにを
3 をひて坂にむかひ五百由旬の鱗の身はちいさき
4 むしの為にくらはるる蒼海のうほはくらきをいとひ
5 てしゆつりをもとめ雪山の鳥はひかりにあひて無
6 常を觀するひは色にふけりて命をうしなひ
7 あるひは蛛の家にかかりて身をほろほすそう
8 して三十四億しゆのすかた一つとしてくるしみを
9 うけすといふ事なしことに畜生道にむまるる物
10 は出る事かたし其ゆへは犬に成ぬれはおほくしゆ

上
32
才

1 みのことくかはねのつもるまで犬と成鳥となりぬれ
2 は過去八万劫かきなきなを八万劫未来八万劫のす
3 忽又八万劫鳥と成ゆへに生をたくわふるとかきて
4 ちくしやうとよむ也されはたかとをの大貳ちくしやうだ
5 うへおちぬるよし子の夢に見えけるかよめる歌こそ
6 あはれなれ

7 おく山の行衛もしらぬ谷そこにあはれいつまであらんと
すらん

8 第四にしゆらたうと申は嗔恚さかりにして悪心さむ
9 る時なし一日に三時のたたかひあり天鼓自然鳴
10 のなけきありくわしく申にをよはす諸阿修羅等

上
32
ウ

1 居在大海辺自共言語時出于大音声といへり此文
2 の心はもろもろの阿修羅大海のほとりにありてみづから
3 ともにいひかたらふ時大音を出してせめたたかひくるし
4 みをうくるなり天鼓自然鳴のなけきこれなり第五
5 に人間と申は我等衆生の事也寿命経には八十六のく
6 るしみをあかせりと申せとも常には八苦とそ申なり

7 八くといふは生しやうと老らうと病びやうと死しと怨憎をんそうと愛別あいべつと求
 8 不得ふとくと五盛陰じやういんと也されは一に生しやう苦は人母のはらに
 9 やとりて三百日あるひは二百六十日業ごうの風にふかれ
 10 てはしめて生れ出る時はいきたるうしのかはをはきて

上 33 才

1 むはらのなかにをい入るかことしまたふすまをもつて
 2 うけとるといへとも百千のつるきをもつてきりさく
 3 かことしといへり此ゆへにあか子のはしめてなく声は苦
 4 かな苦かなといふなり二に老苦らうくと申はさきにも申たりし
 5 ことく年月つもりぬれは老おいおとろへてくろきかみは
 6 しろくなり色かしくてこしかかまりてたちゐ心にまかせ
 7 す子にも人にもへたてられ心をのふる事もなし
 8 ちり残りたる花のかせをまつかことし三に病苦びやうくと
 9 申は四百四病一としてやすき事なしかしらねつし
 10 身ほとほりむねさはきはらふくれいつれかたへて

上 33 ウ

1 忍ふへきしかのみならず子やめはおなしくおやもや
 2 む女やめはおなしくおつともやむ五百身分しんぶんのいたきの

3 みにあらず物の心ほそくいのちのおしきくるしみ
 4 のそふなりその心そうくわうこうくうの歌に
 5 むねにみつ思ひをたにもはれすしてけふりとならん事そ
 かなしき

6 またやまひ大事に成てせみのなくを聞て梅むめつほの
 7 女御

8 明日までも有へき物と思はねは今日日くらしの声そかな
 しき

9 又やまい大事に成て月のあかりけるをみて藤はらの
 10 けんし

上 34 才

1 いにしへは月をのみこそなかめしに今は日をまつ我そか
 なしき

2 やまひ大事に成ける比雪のふりければ良暹法師りやうせん

3 おほつかなまた見ぬ道をしての山雪ふみ分てこえんとす
 らん

4 やまひ大事になりければ法師に成て刑部卿けいぶきやうのりかね

5 はかなしなかしらの雪はきえはててたまたまのこる露の
 我みは

6 病はまことにたへかたく忍ひかたき事なれ国王大臣も
7 とくををかす冷泉院三條院^{れいせんいん さんじょういん}なとも御病ゆへにこそ
8 はやく位ををりさせ給ひけれ承暦^{しょうりやく}の比天下に世
9 中うちおこりて一人もなくたはふれふして侍けるに
10 但馬守国高神^{たなまのかみくにたかじん}拝しに下りけるに子の有けるかおや

上 34 ウ

1 のとにくたりけるにある宮にわらはなるはしたもの
2 有けるを心さしふかくおもひけるかやまひつきけるよし
3 をつたへききてとる物も取あへすのほりてさふらひける
4 宮をたつねければ人のいむやまひなはしる人もな
5 しおほかた朱雀門^{しゅしゃくもん}のあたりへ出されにきといふ事は
6 かりを聞て心うくかなしくてやかて朱雀門に行て見
7 れはしかしかそれとおもはねともこもにいふもの引
8 まはしてしつらひける中にうつくしかりしみとりの
9 髪^{かみ}はちりあくたにむすほほれきたる物にはちう
10 ちつけて両のめを鳥にぬかれて木のふしのぬけ

上 35 オ

1 たるやうにて有けるをよくよく見れはかの女なり心

2 うくかなしくて三井寺へ行て出家しておこなひけ
3 りされはやまひにやつれぬれはうつくしき人もなき
4 なりわか心にまかせたる恋のやまひさへしのひかたき
5 もの也右大弁ちかむねの歌
6 紅の恋の涙のいかなればはては朽葉に袖のなるらん
7 又貪嗔癡^{とんじんち}の三毒の病といふ物あり耆婆^{きば}扁鵲^{へんじやく}か
8 れうちもをよはすまつしきものはよろつの物をも
9 とめ人の物をほしかりわか物をおしむなりこれをとん
10 くといふなりむかし一人のちやうしやあり名をはたう

上 35 ウ

1 だいやといふ金をおほくたくはへてもちたりけるかを
2 き所を妻子^{さいし}にしらせす今生^{こんじやう}の縁^{えん}つきて後犬にむ
3 まれてこかねの有あたりをありきけれとも妻子^{さいし}
4 ともたうたいとはしらすしてにくみて打たたく事生生
5 世世のかたきのことしなくしゆつりなくしてくげんを
6 うくされは経の文に諸苦^{しよく}所因^{しよいん}貪欲^{とんよく}為^い本^{ほん}とき
7 給へり此経文の心はもろもろのくるしみのよるところは
8 とんよくをもつて本とする也とのたまへり一切のあく
9 ごうのみなもととはたたとんよくの心よりおこるなり

10 これをよくよくつつしむへし次にしんといふははらを

上 36 才

1 たて心にいかりをなす事也けりやうせん 仏靈山のこけの庭に
2 して御せつほうありし時一人の龍王りうわう法座につら
3 なる仏過去くわこの流転るてんをかかみての給はくなんちむかし
4 一念のしんいによりて大蛇しやのほうをうけたり今其か
5 たちをあらはしてなんぢにしんいのつみをしらせんと
6 おほせありければ仏眼ぶつがんのちからによりて二万由旬ふじゆんの大
7 じやのかたちをげんすこれのみならず一生涯しやうがいの間
8 つくれる所のくどくぜんこんしゆみせんのことくなりと
9 いへとも一念のしんいをおこせはせんこんのたきき
10 しんいの猛火みやうくわにやきうしなはるるといへり此病いか

上 36 ウ

1 にもれうちすへき也次に癡ちといふはぐちにしてを
2 ろかなるをいふ也ぐちなれば仏法みやうじの名字みやうじをもきかす
3 されはいんぐわのことはりをもしらすされは善惡をもわ
4 きまへすされはとんよくじやけんにもははからず破戒はかい
5 罪業ざいごうにもをそれすこのゆへに大地こくにおちて

6 生生世世にくをうくる昔一人のぐしやあり父をつれ

上 37 才

7 て道を行に木陰にやすむに蚊かといふむし父の
8 ひたひにくひつきたりけるを大きな棒ぼうにて蚊
9 をうちける程におやともにうちころしけりおやを
10 ころさんとはおもはねともくちなるによりて逆罪ぎやくざいを

1 ほんしけるなり四百四病はたたしやうの間のやまひ
2 なりとんしんちの三とくのやまひは生生世世のや
3 まひなり此たひよくよくれうちして長き世のやま
4 いをはなれ給ふへき也第四に死苦と申は一切のく
5 るしみいづれも忍ひかたしといへともことさら死
6 苦をもつて第一とするなり八万四千のちんらうも
7 むより大毘嵐風ひらんふうといふかせ吹来りて四十四のつぎ
8 めことにもろもろの病せめ来るしたすくみまなこかへり
9 ていはんと思ふ事をいはず見んとおもふ物をも
10 見せずちやうこうかきりあれば神にいのれともしるし

上 37 ウ

1 なく仏になけけともかひなしやうほうちうかくすりもか

- 2 なはす保憲やすのりせいめい清明かまつり事もいたつら事也死苦の思
 3 ひかたきのみならずよろつについて此世のはなれかた
 4 くしたしきをもうときをいはずあいみる人ことに
 5 名残おしきくるしみのあるなりかりそめにほかへ行て
 6 やかてかへらん事もわか心にまかせたる道さへ家をたち
 7 出れは名残おしきならひ也いはんやいまた夢にも
 8 見ぬいかなる世界いかなる国へおもむきていかなるめに
 9 かあはんすらんもしらぬに一日かた時ものはなれかたき
 10 おんあいをふりすててたたひとりさし出てゆかん心
- 上
38
才
- 1 の中をしはかり給ふへきなり今生のえんつきぬれは
 2 おもてをならへしをや子なれともおそろしくすさまじき
 3 心出来てはやくすてん事をいとなむなりされは孟まう
 4 嘗君か三千の友冥途めいとの旅にはともなはすせききりん
 5 か二千の友も生をへたつればあふ事なしひとりちううの
 6 やみちにむかひさまさまのくけんをうけてゑんまのちやう
 7 にいたりてつみの軽重きやうじゆうをたたさるる時つみなきよしをち
 8 くん
 9 すれともじやうはりの鏡にくもりなくあらはるればつくり

- 9 し罪をくひかなしみて娑婆しやば世界のをや子親類を見
 10 ていかかすへきとおめきさけへとも生をへたつれば
- 上
38
ウ
- 1 見ゆる事なくしてこたへとふらふものもなしたいたつ
 2 らのひとりことにてつゐになさけなきこくそつの手
 3 わたさるるなりここをもつて大集経しゆきやうには妻子珍宝及
 4 王位わうい臨命終時りんめいしゆうじ不隨身ふすいしん唯戒布施いけいふせ不放逸ふはういつこん今世後世こんせこせ
 5 為伴侶いはんりよとあり此経文の心は妻子珍宝及王位さいしはいの
 6 ちのおはりにのそむ時は身にしたかはすた戒と布施かいふせ
 7 のみそ今世後世の友となりぬるとき給へるなり
 8 又摩訶止観まかしくわんには冥冥めいめいとして独ひとり行たれか是非せひをとふら
 9 はんあらゆるところの財宝いたつらに他のためにありとと
 10 か
 11 れたり又俱舎論くしやろんには再生さいしやう汝今過盛至衰にょこんくわしやうすいしやうこん将近焰魔王まわう
- 上
39
才
- 1 欲往前路無資粮求住中間無所心よくわうぜんろむしろうぐざうちゆうけんわしよしんとあり此心はたまたま
 2 生れてなんちはさかり過ぬおとろふるにしたかひて閻えん
 3 魔王まわうにちかつきぬさきへゆかんとすれば旅たびのかてなし

4 中の間にすまんとすれば身のをき処なきとあり
 5 されはゑんまわうのつかいはたかきをもたつときをも
 6 きらはす玉しるをうはふ也こくそつはかしこきをもを
 7 ろそかなるをもえらはすかしやくするなりされは大国の
 8 堯舜の賢王も名のみのこり日本の延喜天曆のひ
 9 じりの御門も影をたにもとめ給はすいはんや月
 10 卿雲客にをいてをや楊貴妃李婦人のたへなりし

上 39 ウ

1 姿をみても牛頭馬頭はなさけをのこさす衣通姫
 2 小野小町かやさしかりし心にもごくそつははぢす
 3 秦始皇かこらうの心ありしも梁の武帝かいさみの
 4 たけかりしも頼光頼信かはかりことのかしこかりしも
 5 ゆいかうちらいか人におぢられしもひとりととまる事
 6 なし皆三途の故郷にかへりにき天にのほり海に
 7 いりいちにましはり山にうつもれ神通方便をえ
 8 たりし四梵士もつるに死苦をまぬかるる事なし
 9 此心をよめる歌

10 さりととも八重の塩路に入しかと底にもおひの波は立け
 り

上 40 オ

1 西へ入日は東にかかやき春北へとふ雁は秋みなみへ来
 2 りむまるる人はかならず死ての後ふたたひかへる事なし
 3 かはねはのこりてよもきかもとにくち玉しるはひと
 4 り冥途のくるしみをうく心あらん人たれかこれをか
 5 なしまさるへき此心をみなもとのしたかふか歌によめる
 6 草枕たひとはたれかいひをきしつるの栖かはみ山也けり
 7 僧都けんしんか歌

8 人の身を夢の命といひけるはつるには野へにをけはなり
 けり

9 又よみ人しらす

10 皆人の命を露にたとふるは草むらことにをけはなりけり

上 40 ウ

1 かくせい法師かよめる

2 思ひきや君か栖かをそれそとてよもきか本をきつつみん
 とは

3 左京大夫あきのりかよめる

4 野辺見れは昔の人やたれやらん其名もしらぬ苔の下かな

5 第五に怨憎会苦と申はよろつにつけてうらめしき

- 6 事を申也花をみれば風にちり月を見れば雲にかくれ
 7 いづれもかやうの事也此心を素性法師か
 8 花ちらす風のやとりはたれかしるわれにをしへよ行てう
 らみん
 9 うちのたたのふかむすめのよめる
 10 月影の入をおしむもくるしきに西には山のなからましか
 は
 上41才
 1 僧正けんかくかよめる
 2 なかむれは月かたふきぬあはれわか此世の程もかくはか
 りこそ
 3 されは恋しき人のおなし心ならぬもせつにうらめしくて徳
 大寺
 4 左大臣さねよしかなよめる
 5 夢にたにあふとは見えよさもこそはうつつにつらきここ
 ろ也とも
 6 中納言さねいへかよめる
 7 いとはるる我身ならすはいかにして人のつらさを思ひし
 るへき

- 8 おとこのものおもふさへかくのことしまして女は心ふかき
 も
 9 のなれは愛執をとめておつとをうらむる事あり返返
 10 つみふかくそ侍りぬる中宮のかづさかよめる
 上41ウ
 1 さきの世の契りをしらてはかなくも人をつらしと思ひける
 哉
 2 周防の内侍かよめる
 3 契りしにあらぬつらさもあふ事のなきにはえこそうらみ
 さりけれ
 4 藤原のなりつねかははのよめる
 5 さのみやは我身のうきになしはてて人のつらさをうらみ
 さるへき
 6 よみ人しらす
 7 よしさらは心のままにつられよきなきは人のわすれか
 たきに
 8 しかのみならず北野の天神はつくしになかされぬもろ
 9 こしの一行阿闍梨掛羅国へなかされ給ひきこれみ
 10 な怨憎会苦のほうなり第六に愛別離苦と申はわかれ

上 42 才

- 1 をおしむをいふなり前世ぜんせよりの宿習しゆくしゆなれはあるひは年
 - 2 久しくちきりあるひは新枕にいまくらめつらしくてあいしうふかく
 - 3 思ふゆへに更行かね明行鳥のこゑを夢にもいと心
 - 4 まとひてむつことつきせざるをはあかつきの別と申
 - 5 なりみなもとの頼綱かうたに
 - 6 いにしへの人さへけさはつらきかなあくれはなとかかへ
りそめけん
 - 7 又人めしけき中の一夜をたにもあかさぬをよひの
 - 8 別といふなり藤原のためたたかよめる
 - 9 よいのまにほのかに人を三日月のあかて入にし影そ恋し
き
 - 10 鬼界か嶋に侍りける比風のたよりにいまたいきた
- 上 42 ウ
- 1 るよし母のかたへ申つかはすとて沙弥少将しやみせうしやうやすより康頼
 - 2 さつまかたおきの小嶋に我ありとおやにはつけよ八重の
塩かせ
 - 3 これらはいきてのわかれなれはまたあい見る事もあり
 - 4 ぬへしたた長き別こそかなしけれ老少らうせうふちやう不定のさかい

上 43 才

- 5 なれはおやにもをくれ子にもをくれ妻にもわかるるお
 - 6 つともさきたちしうにもさきたちぬる人おほし
 - 7 母にをくれてせちになけきてけんせう法師かよめる
 - 8 たらちめやとまりて我をおしまましかはるにかはる命な
りせは
 - 9 子にわかれてたかをかのよりことかよめる
 - 10 人のうへと聞こし物をしての山わかこの道にまよひぬる
哉
- 上 43 才
- 1 一條殿でうのこれまきの御子に前少将さきせうしやうよしたか後の少将のちせうしやう
 - 2 よしかたとて時めき給ふ公達きんたちおはしましきもかさをわ
 - 3 つらひ給ひてはかなくならせ給ひにきおやの御心の中
 - 4 いかはかりかなけきおもひ給ひけんおときみはもとより
 - 5 道心おはせし人にて世尊寺せそんじの梅の木の本にてつ
 - 6 ねに命終決定往生極楽といふかねをつき給ひける
 - 7 にあはせてたのみ給ひたりける雅円がえん阿闍梨と申僧
 - 8 の夢に心ちよけにてかくそ見えける
 - 9 時雨こそ千種の花はちりまかふ何ふる里に袖ぬらすらん
 - 10 又村上の御門かくれさせ給ひてのちあまりになけき

上43ウ

1 給ひけるにやれいならす成たまひければかくそよみ給
2 ひける斎宮女御

3 をくれてもこえける物をしての山さきたつことを何うら
むらん

4 一條院御かくれの後のちの一條院なにともしらてま

5 きれありき給ひけるを見て上東門院よみ給へる

6 みるからに露そこほるるをくれにし心もしらぬなてしこ
の花

7 中納言さねつなかくれ給ひにければやかて尼になりて

8 五月五日に三河の内侍よみ給へる

9 あやめ草あらぬうきねを引そへて涙そかかる墨染の袖
10 としころのつまにをくれてよみける藤原のもととし

上44オ

1 おもひやれむなしき床を打はらひ昔をこふる袖のしつくを
2 主にわかるることになしくそ侍りぬる賢人二君につかへ
3 すとてなかく世をそむく人おほくそ聞えける深草の御
4 門かくれさせ給ひければよしみねのむねさたとて蔵人
5 のかみなりける人やかて法師になりて笠置といふと

上44ウ

6 ころにみのといふ物うちしきておこなひるければ
7 人あまたくしたりけるものまいりてじゆずを一時はかり
8 すりて行ゑなく出にし人に今一たひあはせてたび
9 給へといふ声をきけは我妻のこゑにききなしてあまり
10 にあはれにてここにあるとていづく思ひけれとも

1 心よはくはては仏道修行はかなはしと思ひかへしてあかつ
き

2 かたにかへるを見給へは九になるをなこをはさきにたて
3 五になるおのこをはめしつかふたちはきといふものに
4 いだかせて行を見るにかくれはつへきともおほえ
5 さりけれともつるに名のりて出る事なしさて残の
6 公卿殿上人は御はてとて墨染なとぬきすてていろ
7 めきわたるよしをききてよめる
8 みな人は花のころもになりぬなり昔のたもとよかはきた
にせよ

9 又かんつけのみねをといふもの別をなけきける比見な
10 れたる桜のもとにてよめる

上 45 才

- 1 深草ふかくさの野への桜し心あらはこの春はかり墨染にさけ
- 2 草木心なしといへとも物あはれをしれはこそ其春は
- 3 すみ染に咲けるとなんいまにふか草のすみそめ桜と
- 4 てあり又師匠にわかるるくるしみいとあさからすそ聞ゆる
- 5 されは釈尊しやくそん八十年のけえんつきさせ給ひて御入滅にうめつ
- 6 ちかくならせ給へは摩謁陀国まかたこくより拘尸那城くしなじやうへおもむき
- 7 給ひし時せんたん栴檀せんたんみなかれはてほだいじゆの菓このみおちて
- 8 沙羅林しゃらりんのかせさびしく跋提河ばつだいがの浪すさましくして十
- 9 六羅漢ろくかん五百の大弟子でし十六の大国ノ王九万三千の衆生
- 10 一つ心にななしみ非情ひじやうさうもく草木もうなたれ悲愛ひあいの色

上 45 ウ

- 1 見え五十二類あひもあしをあかき羽をたれてうれへにた
- 2 へける此時けうほん橋は梵婆提はだの大師にうめつ入滅かすい我随入滅にうめつとて水に
- 3 成てうせ給ひぬ迦葉尊者の御滅後めつごにありてお
- 4 めき給ひしこゑ三千世界にきこえけるなけきあ
- 5 さからすそおほしける生ある物かならすおほりあり
- 6 あひあふ物はかならすわかれありこれを愛別離苦あいへつりく
- 7 とはいふなり六通つう三明みやうをさと給ひたる釈尊さへ此

上 46 才

- 8 くるしみをはまぬかれ給はすいはんや濁世の凡夫にを
- 9 いてをやいかてくるしみをのかるへき此心は朗詠ろうぎの詩
- 10 にも作れり生あるものはかならすめつす釈尊いまた

上 46 ウ

- 1 たる歌
- 2 けふのみと見るに涙のます鏡なれにし影を人にかたるな
- 1 栴檀せんたんのけふりをまぬかれ給はすたのしみつきてかなし
- 2 み来る天人なを五すいの日にあへり七に求不得苦くふとく
- 3 といふはよろつ物をもとむるにえす心になふ事
- 4 なしちちたる春の日けふりたえてくい物のたくひを
- 5 もとむるにえすれいれいたる冬の夜衣ふゆをうる事なく
- 6 して寒天かんてんを明しかたし衣食いしょくの二事じにともしきも
- 7 ののかならすよろつのそみ心になはすされはうつく
- 8 しかりける子をすてたるにきる物にゆひつけける
- 9 身にまさる物なかりけりみとり子はやるかたもなくかなし
- 10 五月のなか雨の比かかみをうりける女のうらにかきつけ

3 世中にすみわひて夫婦わきしてはなれけるか女はよき
4 人のめに成てなにはのかたへまかりたりけるにおとこは
5 あしをかりてうりければよめる

6 君なくてあしかりけりと思ふにもいとなにはのうらそ
すみうき

7 これみな求不得苦の人のよめる歌なりここをもつて観
8 世音菩薩は一切衆生のねかひをみて貧苦なる物をあ
9 はれみすくはんかためにほさつのきやうをおこなひ給ふな
り

10 そのいんえんをろをろ申へし昔父をは長那といふ母

上
47才

1 をはまなしら女といふものありき二人の子をもちたる
2 なり名をは早離速離といふ無常をまぬかれすして
3 母まなしら女やまいをうけてうせぬ父の長那かなしみ
4 けれども世中のならいなれは又妻をまうけたり
5 かかりける程に天下けかち行て人みなかつへ死にけ
6 れは長那二人の子を継母にあつて檀那羅山へ
7 行ぬ一つくいぬれは七日物ほしからぬこのみありと聞
8 て取に行たりける跡に継母早離速離を舟にのせ

9 てみるめかれといひてしまにはなちけるそのとき二
10 人の子かなしみの涙をなかしてちかいをたてていはく一

上
47ウ

1 切の衆生貧苦ならんをたすけよろつの苦をすく
2 はんといふ願力により給ひてさうりそくりは観音勢
3 至と成給ひぬ母のまなしらは阿弥陀如来と成給ひ
4 ぬきてこそおや子の契りなれは阿弥陀の三尊とは
5 申けれその時はなたれし嶋は今の補陀落山なり
6 これはたたいへるにあらず経文にまかせていへる普天竺
7 国に王あり象をかふ毎日に百石の白米をかふなり
8 折ふし一人の羅漢象に向ていはく象はかしこしわれ
9 はかなし我はかしこしぎうはかなしといひてさりぬこれを
10 聞てさう物をくはすたほれふしてありけりぎうかふもの

上
48才

1 此事をおほやけにかたり申ければ羅漢の呪咀したる
2 なんめりとて羅漢をめして此ゆへをとひ給ひければ
3 羅漢のいはくむかしぎうと我と同朋なりしかるにぎうは
4 しやうげうのことはりをしらす施を行せしゆへに今畜

5 生にむまれたりといへとも毎日に百石の米をくふ我
 6 はきやうろんをさとりにしかゆへに人界に生れたりといへ
 7 とも檀婆羅蜜を行ぜさりしゆへに一鉢をむなしくして
 8 しよくをえかたし此事をさうにむかひて申つるなりとそ
 9 の給ひけるされは一切の衆生の苦はみな前世のむくひ
 10 なり仏の御弟子羅旬比丘は頭陀をすれとも食をえす

上
48
ウ

1 又目連の御弟子利堀尸は乞食をすれとも鉢をむなしく
 2 す吾朝廷曆寺の安然和尚は根本中堂の薬師仏と物
 3 かたりし給ひし程にたつとき人なれとも食をうる
 4 事なかりしなりつねに土なとをくはれけるなりされは
 5 ひんくは人にはよらぬ事にてそ侍りぬる堯の代に九
 6 年雨ふりて日のかけを見さりしも湯の代に七年
 7 日てりて雨のうるほひをえさりしも吾朝の長承
 8 のけかちにおほくの人とも死にうせたりし事もみ
 9 な求不得苦にあいしなりしかじ生死をいとひほだい
 10 をせうしてこのくるしみにあはさらんには八に五盛陰

上
49
オ

1 苦といふはよろつにつけて物のおそろしくあやう
 2 きなり国王はぶつてんにをそれ給ふなり天変大地
 3 震すればあやしみをなし臣は龍顔におそれたて
 4 まつり舟にのるものは悪風海賊にあはしと思ひ
 5 山を行ものは山たちにあはしとつししみ病をうけ
 6 しとたしなむされは法花経に三界無安猶如
 7 火宅とのへ給ふなり此心は三界はやすき事なし
 8 なをし火のいへにいるかことしとなりしかれば三界火
 9 宅は龍のひげをなつるかことく五趣輪廻は虎のを
 10 をふむにいたりしかのみならず世中にありふるならひ

上
49
ウ

1 にて人の身にしたかひてかたきといふものありおや
 2 のかたき宿世のかたき其外よろつにつきてのかた
 3 きはかぞふるにをよはすされはをそるる事生生世世
 4 にたゆる事なし返返これらの苦をのかるべきなりのか
 5 るるといつはたとひ人われをころさんとすると我は
 6 その人にうらみをなすへからすあたをは恩をもつてほ
 7 うするといふ本文ありこの心をさとらざる人は生生世世

8 のかたきをまねくなりわれ人をうしなへは人またわ
9 れをほろぼすされは経の文にあたをほうすれはあた
10 つるにつきせすとかをもつてあたをほうすれはあたつるに

上50才

1 つきぬとのへ給へりこれらのくるしみかそへつくしかたし
2 これを五盛陰苦じやういんくといふなり第六に天上と申は
3 快樂けらくの数をつくしかたしといへとも五すいとて五つの
4 くるしみをまぬかれす此五つの苦は花のかつらしほみ
5 わきの下よりあせいて二つのまなこましろき天衣
6 あかつき飛行心ひきやうしんにまかせすひとり林の間にすてら
7 れてあふきふしてかなしめりつるに命おはりてすな
8 わち大地獄こくにおちて無量の苦患くげんをうく善現城ぜんげんじやう
9 はすみよかりしかとも阿鼻大城あひしやうはすみにくく劫婆こつば
10 羅樹しゆのとは涼しかりしかとも刀林たうりんの木の下は忍ひ

上50ウ

1 かたし身ししむらをきりやふりき帝釈たいしやくの宝座ほうざには
2 居ゐよかりしかとも熱鉄ねつてつの床の上にはふしにくかりき
3 衆車苑しゆしやえんの車はのりよかりしかとも火焰くわえんのくるまはのり

4 にくかりき白玉はくぎよくの軟石なんせきはなつかしかりしかとも衆合しゆかうの石
5 は身をせめけり殊勝池しゆせうちの水はあひよかりしかとも
6 無間むげんのかまのゆはあつかりき四種の甘露はあまかり
7 しかともねつてつのまろかせはくいにくかりき五妙ごめうの
8 音楽おんがくは心すみしかともとくしやのほゆる声はおそろし
9 かりき飛行ひきやうの天衆はあそひよかりしかとも阿防羅あほうら
10 刹せつは情もなかりきここをもつて正法念経てんじやうよくたいに天上欲退

上51才

1 時心じしん生大苦惱地獄衆苦毒くどく十六不及ふぎういぢ一とき給へる
2 なれされは仏は返返この六道をめぐりありき給ひて
3 ひとつも苦くならぬ所なしはやく生死をいとひはなるへ
4 しとなりかやうにかたりければ此女なけきふかきけし
5 きにてかたはしをの給へるをきくにさへ血をはき死
6 なんするやうにおほゆるなりいはんやめいとのみちに
7 をもむきまことのくるしみをうけんけんにをひてをやいか
8 にしてかこの六道をはなれ候へきといへはこの僧
9 仏にならさらんかきりはいかてかはなれ給ふへきといふこ
10 の女仏にはいかにしてなるへきと申せは仏になる事
「やすしとも申つへしまたかたしとも申つへし仏に」

上51ウ

- 1 のかたければこそ無始生死むししやうしより億億萬劫おくおくまんこうのあひた
- 2 におほくの仏の出世の利益にもれてもろもろの衆
- 3 生六道にはちりんすれ法花経の六のまきにもこの
- 4 もろもろのつみの衆生はあくごうをもつて三ほうのな
- 5 をもきかすとのへ給へりされは仏になる事はかたき
- 6 なりしかれば天台宗てんたいしうの心をうけ給る時は非情草木ひしやうさうもく
- 7 もほとけとなれりいはんや女人もきはすけむふ
- 8 つもんほうの国にむまれて仏道をねかはんに
- 9 いかてか成仏せざらんとはいはこのをんな女人は五障しやう
- 10 あるかゆへにじやうぶつにもるへきやうにうけ給ひしに

上52オ

- 1 女もつるにほとけとなるへきにてあるこそめてた
- 2 けれなに事をつとめをこなひてかほとけになり
- 3 さふらふへきとへはほとけになる道は一にあらす
- 4 たとへはわうぐうまいるに人のこころこころによりて
- 5 入かことしごくらく浄土じやうどに往生する道もかくのこと
- 6 し十二門もんをたてて申へし
- 7 第一に道心をおこして世をのかれしゆつけすへし

上52ウ

- 8 第二にふかく三ほうをしんずべし
- 9 第三に如来きんがいの禁戒をかたくたもつへし
- 10 第四にもろもろの行業きやうごうをつむへし

上53オ

- 1 第五に仏にならんと願をおこすへし
- 2 第六に生生世世こつしやうに業障をさんけすへし
- 3 第七にもろもろの布施ふせをぎやうすへし
- 4 第八に觀念くわんねんをもつはらとすへし
- 5 第九に善知識ぜんちしきにあふへし
- 6 第十に臨終りんしうに悪念をととむへし
- 7 第十一に法花経ををこなふへし
- 8 第十二に阿弥陀仏をたのみたてまつるへし
- 9 されはかみをそりおとすものもありまたなかく
- 10 はやさんとするものもありかみへかきあくるものも
- 1 ありしもへなてつくるものもありみなみなこのみこのみ
- 2 なりされはめいくむは松をあいに楽天らくてんは竹を友
- 3 としねいわうはふえを吹楚王そわうは琴ことをひく人

4 のころはひとつにあらさるかゆへに十二のもんを
5 たてて申なりいづれにてもあれ御ころのひかん
6 かたをつとめ給ははみな仏道^{だう}にいたるへきものな
7 れはいそきいそきつとめをこなひて仏に成たまふへし

宝物集下巻

下1才

1 宝物集下巻

- 2 第一に道心なうしんをおこし出家しゆつけとんせいで仏に成へしと
- 3 申はこれたしかの修行しゆぎやうなり万法まんぽうは心のなすところ
- 4 にてさらに別にべち法ほうなし発心ほつしんをおこして浄土じやうどをも
- 5 とむへき也永観法師やうくはんほつしは人木石にんぼくせきにあらすこのめはを
- 6 のつから発心ほつしんすとそをしへける道心だうしんをおこさんもの
- 7 はよき友にしたしむへき也梅檀せんたんの林はやしに入人は衣を
- 8 のつからかうはしく麻あさの中の蓬よもぎはためさるになをき
- 9 なり海にうかふ舟ふねは万里はんりをすき松によるかつらは
- 10 千尺せきのこすゑにのほるされはせうれけせかいの鳥

下1ウ

- 1 は妙法めうほうをさえつり此ゆへに道心だうしんあらん人にちかつきて
- 2 仏道ぶつだうをねかふへし法花經ほけきやうには不親近ふしんじん諸外道しよげだう梵ぼん
- 3 志しとのへ給へりこの心はかりそめにもあしき友に
- 4 ちかつく事なかれよき人にしたしめとなり心は第一
- 5 のあたなり心は心をゆるすへからす煩惱ぼんなうは家
- 6 の犬うてとも門をさらすところは山のかせきなつ

7 けともしたかはす心はあらき馬のことししつ

8 めて道心だうしんをおこすへし一念菩提心ねんぼだいをおこせは百千

9 万の塔たうをつくるにすぐれたりと申ぬれは一念のくとき

10 さへ無量りやうなりいはんやなく道心だうしんをおこしてひ

下2才

- 1 とへに仏道をもとめんにをゐてをやされは釈しゃ
- 2 迦如来華嚴經かにようらいけげんきやうの中におほくのたとへをとりて
- 3 ほたいしんの功德くどくをとき給へりたとへは善見葉王ぜんけんやくわうは
- 4 一切さいのやまひをととむるかごとく菩提心ぼだいしんも一切の煩惱ぼんなう
- 5 病やまいをととむたとへは馬牛羊ばまうしひつじの乳ちの中へししのちを入
- 6 れは馬牛羊の乳はきえす又一切のたからの中に如にま
- 7 意珠いしゆすくれたり一切の功德くどくの中に菩提しんのくとき
- 8 須すとくすぐれたるとのへ給へり又秘密藏經ひみつざうきやうには
- 9 はしめの菩提心ぼだいしんより重重ちうちうの十惡あくをのそくいはんや
- 10 第二第三第四にをいてをやされは善財童子ぜんざいどうしの

下2ウ

- 1 菩提心ぼだいしんをおこし給ひしをは弥勒大士みろくだいしは獅子しし
- 2 の座ざよりをりさせ給ひて光明くわうみやうをはなちておか

3 み給へるなりこれ童子のたつときにあらす菩提
 4 心のたつとき也しかりといへともとめるものはたの
 5 しみにふけりて出家の心さしなしたれも善
 6 には物うく悪にはすすみやすきものなり然れ
 7 とも釈迦如来は摩伽陀国の御あるし浄飯大
 8 王の皇子にておはしませは十善の位に
 9 そなはり給ひて栄花にほこり大臣百官に
 10 いねうせられ給ふへきに生死無常のはか

下3才

1 なき事をなけき給ひて王位をすて給ふのみならずお
 2 やにも妻にも別れ給ひて十二年の間難行苦行
 3 の功つもりて十二月八日の暁明星を見給ひて諸
 4 法実相のことはりをさとり給ひてよりのち三界の衆生
 5 の導師となり給へるなりされは大国のあるしと
 6 成給ひたらんは夢まほろしの間のたのしみ成へし
 7 三世了脱の仏と成給ひてなく生死のくるしみを
 8 はなれけらくふたいの地に座し給ふこそ有かたけれ
 9 ここをもつて濁世の我等を思ふに何に心をととむへ
 10 きはやく物うき世路のいとなみをふりすてて後生

下3ウ

1 善処のいとなみをなし給ふへき也人の命のあだなる
 2 事はあしたの露のことくよひのいなつまにいたり
 3 をくれさきたつ間こそあれつるにはたれか残りにと
 4 まるへきされは女人なれ共小野小町は生死のこと
 5 はりをしりてかくそよめる
 6 あるはなくなきはかすそふ世中にあはれいつれの日まで
 なけかむ
 7 又かものなりすけかよめる
 8 たれとてもとまりはつへき身ならねとまづはさきたつ人
 そかなしき
 9 藤原のちかもりかよめる
 10 けふまではよそにのみきくはかなさのいつ身の上になら
 んとすらん

下4才

1 露の命のきえぬまにあるひは逆修の善をまうけあ
 2 るひは目のまへの功德をつくるへき也二期の夢さ
 3 めて後の追善の物をは七分か一つをうくるとそ申
 4 ぬる仏をしへてのたまはくとへは王宮に池有此

5 池に色香たへなる蓮さけりある人此はちすをぬ
6 すまんと思ふもし人とかめはをしのなくまねをよく
7 すれはをしそと心えてとかめしと思ひてぬすむ
8 ほとに花はかりに心入て人のくるをはしらすしてとらへ
9 られて後にをしのなくまねをしければかひもなく
10 ていましめられけり其やうに露の身のきえてのち

下4ウ

1 功德くどくをなすはとらへられて後をしの鳴なまねをした
2 るかことしされはかしこき人は十善じぜんの位くらゐをたにもふ
3 りすて冥途めいどををそれ給ふためしこれおほし天竺てんぢく
4 の国王こくわうしゆつけ出家し給ひて後おほきにたのしみ給ふ
5 を大臣あやしみてとひたてまつりければ十善じぜんの
6 位くらゐをたちし時は一切さいについてそのおそれありき
7 出家して後にをそる事もなくたのしきよしをそ
8 のたまひけるされはかやうの人のおほき事はかそへ
9 つくすにをよはす仏も我等出家得阿耨多羅とくあおくとそ
10 とそおほせられける此心はわれとしのわかりし

下5オ

1 時出家して仏になる事をえたりとのたまへるなり
2 されはわかくて出家めてたかるへき也むかし七度しちどげん
3 ぞくしたりしものの罪業ざいごうをもきかゆへに大地獄だいちごくにお
4 ちし時罪人ざいにんかいはく我すてに七度げんぞくしたる
5 つみによりて地獄じごくにおつさて七たび出家したりし
6 功德くどくはいかにといひければ閻魔王えんまたなころをあら
7 せて礼らいし給ひて悪道あくだうをまぬかれけりいはんや
8 道心だうしんをおこして出家したる功德くどくこれにておもひ
9 やり給ふへきなりはやく道心だうしんをおこして仏に
10 なり給ふへきなり

下5ウ

1 第二にふかく三宝さんぼうを信して仏になるへしと申は諸
2 仏ぶつはみな三宝さんぼうを信しんして道をえ給へるゆへ也三ほ
3 うと申は仏法僧ぶつぽうそうの三つなり仏にたのみをかけ
4 たてまつりて成仏じやうぶつすへきむねををるを申へし
5 法花経ほふけきやうには今此三界こんしがいがいぜ皆是我有其中衆生がうごうちうしゆじやうしつぜ悉是
6 吾子こしとのへ給ふなり此文の心は三界の衆生はみ
7 なわか子なりとき給へは父ちちのことくにおもひたて

8 まつりて一切衆生たのみかけたてまつらはうたかひな
9 く仏に成たまふへきなり又譬喩經ひゆきやうをとぎ給ひし
10 時は七日の間し青やうれむ慈悲じひの御まなこよりく

下6才

1 れなるの涙をなかし給ひて末代まつたいの衆生の道心なき
2 事をそかなしみ給ひし今生こんじやうのおやはたた一世のち
3 きりはかり也おやは子を思ひ子はおやを思ふといへと
4 もたた夢まほろしの間の事なりさらに後の
5 世に二たひみゆる事なしされは大聖世尊しやうせいそんに父の
6 ことにたのみをかけたてまつらはかならはのちの世を
7 すくひ給ふおやをもつへきものなりそうきのくきや
8 うも五百の大願ぐはんも我等衆生のためなりしかるに今
9 見仏聞法けんぶつもんぽうのけちえんをするもたれかちからそや
10 ひとへに大恩教主釈迦如来おんけうしゆしやかによらいの御ひくはんなり此御

下6ウ

1 をしへにあつからすはみやうよりみやうに入といひ
2 てくらきよりくらき道にまとひて六道にちんりん
3 すへし此心を泉式部かよめる

4 くらきよりくらき道にや入なましはるにてらせ山のはの
月
5 はやく随喜ずいきして往生わうじやう極楽をいのりて仏に成給ふへし
6 薬師如来やくしは一切衆生の病やまいをとめて八ほさつをし
7 て極楽へをくらんとちかひ給ふなり我等貪瞋痴とんしんちの
8 三毒さんどくの病をもきかゆへに出離しゆつりの心なしいま如来の
9 御ひくはんにあひたてまつりてすみやかに生死しやうじの大
10 海かいをわたり給へきなり人死しく苦くのきはまる時はかなら

下7才

1 すたんまつまのくるしみ身をせむるかゆへに臨終りんしゅう正しやう
2 念ねんならすされは薬師如来やくしをたのみたてまつれば
3 貪瞋痴とんしんちの業病ごうびやう及およもろの病をのそき乃な
4 至八菩薩ぼさつをせうすとのたまへは又大慈大悲じひくはん観くわん
5 世音菩薩ぜおんぼさつは身を三十三にへんして十方の衆生
6 をみちひきかたちを六しゆにわけたまひて六
7 道のくんるいをすくひ給ふ観音くわんおんの御ひくはんはんに
8 あつからすはいかてまつたく蓮台れんたいに生るる事を
9 えん現世げんぜの利生りしやうも人みなしれりされは中
10 申によらす又地藏菩薩ぢざうぼさつはわれら衆生ふかくた

下7ウ

- 1 のみたてまつるへき仏なりそのゆへは釈迦如来切
- 2 利天にましまして十方の諸仏菩薩あつまり給
- 3 ひし中に地藏菩薩につけてのたまはく未来悪
- 4 世の衆生をは汝に付属す一日一夜なりとも
- 5 悪道へおとし給ふ事なかれとおほせられしなり
- 6 されは冥途の事にきてはよろつ地藏菩薩に
- 7 いのりたてまつりて今世後世ういんたうのりう
- 8 やうをあふきたまふへきなりあるいは炎魔王と成て
- 9 中有の罪人をやとしあるひは十王と成て七日
- 10 この罪人をすくひ給ふ自業自得果のつみまぬ

下8オ

- 1 まぬかれかたければかならず衆生にかはりて苦患を
- 2 うけ給ふしかのみならず毎日しんてんことにもろもろの
- 3 地獄入給ひて罪人とふらひ給ひぬ造作五逆罪
- 4 常念地藏尊遊戯諸地獄決定代受苦この経文の心
- 5 は五逆罪をつくりたるものなりともつねに地藏菩
- 6 薩を念せはもろもろの地獄に入て衆生にか
- 7 はりて苦をうけん事決定なりとの給ふなりさ

下8ウ

- 8 れば現世の御利益もいとかなしくそおほゆる西
- 9 坂本に観音院といふところにおひたる女あり
- 10 き五寸はかりなる地藏をもとめておこけといふ

下9オ

- 1 物の入たてまつりてくふ物のさはをまいらせて年
- 2 をへてけり此女田を二反もちたりけるを年ころ
- 3 子なりけるおとこにあつらへてつくらせけるに
- 4 いかなる事かありけん六月までつくらさりければ
- 5 子をうらみて年比もちまいらせたる地藏にむかひ
- 6 てあはれ人にておはしまさんには此田はつくりて
- 7 たひてましとてねたりける夜の夢に汝か田の
- 8 つくられさる事をかなしむ間我つくりてあた
- 9 へんとなたまひてわかやかなる僧の来り給へる
- 10 とみて夜の明かたにめさめければ道をとをるも
- 1 のの声にてきのふまでつくられさりし田を夜のまには
- 2 何もののつくりたるらんといふをききて夢におも
- 3 ひあはせてわか田のもとに行て見れば此田みな

4 うへられたりふしきにおもひてもし地蔵の御は
5 からひにてもやあるらんといそきかへりて見れば
6 御足手に土うちつきておはしましける又二条朱
7 雀^{しやく}辺^{かみ}に紙すきの有けるか其あたりのものとも
8 冷泉河^{れいせん}辺^{かべ}のゑそてらの地蔵かうをそをこなひ
9 けるに紙すきさして心さしはなかりけれどもなく
10 さみかてらにましはりて一年に三度つつ此かうを

下9ウ

1 つとめけりある年この紙漉^{かみすき}やまひ大事にて命^{いのち}
2 終^{おはり}おにともにとらへられて炎魔王^{えんまわう}宮^{くう}に行ぬす
3 てに罪^{つみ}の軽重^{きやうぢゆう}をたたさるる所にわかやかなる僧
4 一人来り給ひてあなかしこにこひうけて娑婆^{しやば}へ
5 かへるへき道をねんころにをしへられけりあまり
6 にうれしくていかなる人にておはしましけるそと
7 とひければ冷泉河^{れいせい}原^{かはら}の辻^{つじ}にあり一年に一度われ
8 を供養^{くやう}し給ひしなりとてうせ給ひぬ紙^{かみ}すきよみ
9 かへりて涙^{なみだ}をなかつて此事をかたりていよいよこの
10 地蔵をきゑしたてまつり又東山にありけるをん

下10才

1 なも年久しく地蔵を念したてまつりしゆへに
2 死したるおやをもちわつらひけるを行脚^{あんきや}の僧^{そう}
3 にけんし給ひてかの死人を山へをくりけうやうし
4 給ひけり山をくりの地蔵とて六波羅^{はろ}にましま
5 すなりいはんやかくれての利生^{のち}後の世の御たす
6 けおもひやり給ひていつれの人もみな地蔵菩薩
7 をたのみたてまつるへし也されは三井寺のな
8 いくうちこうは炎天^{えんてん}に重病^{ぢゆうびやう}をうけて悩乱^{なうらん}す
9 る事前^{ぜんご}後をしらすしかるに陰陽士^{おんやうし}清明^{せいめい}
10 をよひていのらせけれともしるしなし清明^{せいめい}

下10ウ

1 かいはいくちこうは定業^{ぢやうごう}かきりの有人なれはいかに
2 いのりたてまつるともしるし有へからすたし
3 御弟子^{でし}の中に師匠^{ししやう}の重恩^{ぢゆうおん}をしり給ひてかの
4 御命にかはり給ふへき人あらはまつりかへんと
5 いふちこうは病のしのびがたきに心なき事
6 なれはわか命にかはれとはいはされとも弟子^{でし}と
7 もの中を見まいらせけれとも我かはらんといふ物

8 なしここに性空阿闍梨といふ弟子師弟は他生
9 の契あさからすされは弘法大師は師は三世の
10 ちきりおやは一世のむつひとおほせられし也

下11才

1 清明かいふことく師匠の命にかはりて我かの病
2 をうけつるに冥途にをもむくへしいそきま
3 つりかへよといふを聞てちこう涙をなかしはいはく
4 わか命にかはるへき心さしはうれしけれども弟子
5 をころしてさきたてん事は順儀にはつれぬへし
6 たたまつりかゆへからすといひければ性空いひつる
7 ことはなれはふつとおもひきりたりけるを母のあり
8 けるか聞て八十にあまりたるははをふりすてて
9 さきたたん事いかにとせいしければ性空はいはく
10 流転三界中恩愛不能断奇恩入無為真実

下11ウ

1 報恩者といふ要文をひけり此心は三界のうち
2 にるてんすれはをんあいためる事なし恩をす
3 ててむるに入もの真実のおんを報する物なりと

4 仏のとき給へるなりされはおやの恩は三界を
5 はなれさるおんあいななり師匠の恩は三界をはなれ
6 て無為に入真実の恩なり我すてに師匠の命に
7 かはりなは此くりきによりて母もかならず無為
8 の都に入給ふへし心やすくおもひたまふへし
9 といひてたちまちに師匠の命にかはりかの業
10 病をうけ五体やすからすなうらんす性空

下12才

1 やまひあまりにしのひかたければ本尊の絵像
2 の不動にむかひたてまつりて我師匠の命に
3 かはりてこの業病をうけたりねかはくは明王臨終
4 正念にしてはやくころし給へといひて礼拝しけ
5 れは絵像の不動の御まなこよりくれなるの
6 涙をなかし給ひて汝は師匠の命にかはる我は
7 汝か身にかはるとおほせられければ性空かや
8 まひたちまちになをりて師匠も弟子も命た
9 すかりけりされは十方三世の諸仏は同体分身
10 にて渡り給へはいつれの御ひぐはんもみなかくのこと

下12ウ

- 1 しされはいつれの仏にてもましましたのみたてまつりて仏になり給ふへし又もろもろの経論真言のくとくをかたはしつつかへしむかしくばくばら
- 2 もんといふ人あり一日に千のいき物をころす
- 3 年つもりぬれはころす所の物かすをしらす今生の縁つきて大地獄におちてくけんをうくる
- 4 にすいくたらにのひとつの文字風にふかれてかはねにかかりけるくときによりて地獄のなかへ俄にやふれてたちまちに清涼の池となれり
- 5 いはんや心をつくして陀羅尼をよみかきたらん

下13オ

- 1 功德は一切経を百万返よみたるにおなしといへり又尊勝陀羅尼のくとき後の世の事は申にをよはす現世もめてたき事なり九条の右大臣もろすけは百鬼夜行にあひ給ひたりけるに尊勝陀羅尼をみて給ひて鬼の難をまぬかれにき又西三條の大將つねゆきは神泉苑にてかやうの事ありけるにも此陀羅尼をきぬのゑりに

下13ウ

- 8 ぬひくくみてもち給ひしゆへにたすかり給ひにきされは冥途の道にても阿防羅刹いかてか此くときをむなしくなさんやよくよくしんすへき

下14オ

- 1 ものなり又ふかく僧をくやうすへしと申は仏羅漢なくは持戒の比丘それなくは破戒の比丘も
- 2 しかしらをそり衣をきたらん法師をくやうすへし持戒破戒をきらふからす大国に玉をふくむ鳥あり鳥はたからともしらされとも
- 3 玉はたからなりされは僧は破戒なれともくやうのくときはたからとなる也ここをもつて羅什三蔵ははちはまんゑのことし法は蓮花のことし
- 4 との給へりはちは衣のことくに身にあまりぬれとも法は蓮花の土によこれさるかことし又弘法
- 1 大師は功德は大地のことしをのれかために諸人にほとこせとのたまへりかりそめにも出家の体をえたらむものをあしくいふへからすゆいなといつ

- 4 しものをろかにして僧をあなつりしかは九十一劫虫にむまれて苦をうく又ある人わかかりし時
- 5 たはふれに老僧をわろくいひしかは五百生犬に
- 6 むまれてされはいかにもあれ法師を供養して往生極楽をいのり給ふへきなり
- 7 第三に戒をたちて仏になるへしと申事は
- 8 如来の禁戒に入ぬれば八万四千の悪業煩惱
- 9
- 10

下14ウ

- 1 のいくさのせはせめ来るといへともまつたくをかさるる
- 2 事なし梵網経には戒をたもつ人は浄土人天の
- 3 むくひをうくるとき成実論には戒をたもてる
- 4 ものはもろもろの善根を成就すと教たり知度
- 5 論にはもし人大善根をもとめんとおもははま
- 6 さに戒をたもつへしといふ又十分律に戒をた
- 7 もつ人をは二十五のぜんじんるねうすといへり
- 8 此ゆへによくたもつを十善といひあしくやふる
- 9 を十悪と申なり戒のさまひろし菩薩戒より
- 10 沙弥戒にいたるまで八万の律義三千の威義

下15オ

- 1 なとてさまさまおほけれとも仏めうかい大わうのた
 - 2 めには十戒ををしへたいる長者がためには五戒
 - 3 をさつけ給ふこのゆへにまつ五戒の有さまを申
 - 4 へし五戒とは殺生偷盗邪淫妄語飲酒此五を
 - 5 申也一には不殺生と申は物の命をたたぬ事なり
 - 6 せつのゐんせつのえんせつのほうせつのこうと
 - 7 いふはみつからころすのみにあらず人のころすに
 - 8 もともなはず人にをしへてもころさせすされは
 - 9 持戒の比丘さといいてて乞食するにある玉つく
 - 10 りのもとへ行ぬかの玉つくり家のうちに入たる
- 下15ウ
- 1 ひまに鵜といふ鳥来つて玉をのみぬ玉つくりき
 - 2 たりてここにある玉うせたり乞食の沙門のぬ
 - 3 すめるそととらへてうちせめけれとも殺生
 - 4 戒をやふらしとて鳥ののみたるとはいはすうち
 - 5 せめらるるにこのかなつちぬけてそはなる鳥
 - 6 にあたりてすなはち死にけりしはらくあり
 - 7 て沙門のいはくこの鳥はいきかへるましきかとと

- 8 へははや死にはてたりといひける時さらはこの
- 9 鳥のはらをあけて見よ玉あるへしといふ其
- 10 とき玉つくり鳥のはらをあけてみれば玉あ

下16才

- 1 りけり玉つくり此僧にむかひてなにとてやか
- 2 て此鳥のみたるよしをはのたまはてゆへなく
- 3 せめられ給ふそといひければ僧のいはくわれ殺
- 4 生戒をたもつゆへにいはさるなりといひければ
- 5 その時この玉つくり僧を礼拝してたつとみけり
- 6 此事を天台にときたまへり昔国王のましましけ
- 7 るかきやうこうたつとき羅漢をきゑせんかため
- 8 にむかへ給ふ折ふし碁をうちてまち給ふと
- 9 ころに羅漢の来り給へるよしを奏しける
- 10 時うつ碁にきるへきところの有けるをけうに

下16ウ

- 1 入てたたきれとのたまひけるを羅漢の事と
- 2 心えて官人すなはち羅漢のくひをきりて
- 3 国王碁をうちはて給て後羅漢こなたへよひた

- 4 てまつれとおほせられける時はやくきれとの
- 5 たまひつる程にきりぬと申国王此事をかなし
- 6 みあさましくおそろしくおほして仏のもとへ
- 7 まいりてさんけし給へは仏のたまはくむかし国
- 8 王はかへるにて田の中にましましける時羅漢
- 9 のうふにて田をつくる程にすきといふものを
- 10 もちて心ならずかへるのくひをうちきりけり農夫

下17才

- 1 くひかなしめともかひなくしてやみぬされはいまその
- 2 業をつくさんかために心ならずころさるるなりと
- 3 の給へりあやまちさへかくのこしいはんや心を
- 4 おこしてころさんむくひにをいてをやむしし
- 5 やうしより諸仏のりやくにもれて六趣に輪廻
- 6 してかなしむは物の命をころして殺生戒をたも
- 7 たさりしゆへなりとて仏はとき給へるかへすかへす物のい
- 8 のちをころすへからす二に不偷盗と申は草の
- 9 一すちも針の一本もぬしにしらせてとるへからすい
- 10 はんや其外のものをやむかし憍梵波提手すき

下17ウ

- 1 みに道のほとりにおちたるあるをとりたりしゆへに
- 2 五百生の間うへのすかたと成にきされは仏の物をぬ
- 3 すみたるものは生しやう生しやう世せ世せに手なきものにむまるる
- 4 なりくろかねは針はりにてはて人はぬすみてはつる
- 5 なり今生こんしやう後生ごしやうあさましき事なりされはかし
- 6 こき人は人のあたふる物をさへことによりてと
- 7 らすことにぬしのおしむ物はゆめゆめとるへから
- 8 す又六賊ろくそくのぬすみといふことあり一にはよろす
- 9 の物をみてほしと思ふ二にはこゑを聞物人の
- 10 かたりつたへたる物をほしと思ふ三にはもののかをか

下18オ

- 1 きてほしと思ふ四には舌したにものあちはひをしり
- 2 てほしと思ふ五には身にふるる物にあいちやくをな
- 3 してほしと思ふ六には心に物をあんして思ひ出して
- 4 ほしと思ふこれみな輪廻りんゑの業ごうなりよくよくつつしみ
- 5 て生死をはなれ給ふへき也三には不邪淫じやいんと申は
- 6 妻つまあるものをおつとにせすおつとある物をつま
- 7 にすへからすといましめられたりされともこれは

- 8 ひとりをはゆるされたりければ事もをろそか
- 9 なり不淫いんとて女のかたへ目をも見やらされと仏
- 10 はせいせられたり女人は煩惱ぼんなんのみなもととなり

下18ウ

- 1 一たひおかしつれば五百生の間かれにしたかひて
- 2 六趣しゆに輪廻りんゑす毒蛇どくじやを見るときも女人を見へからす
- 3 といへりされは一見けん於お女人にやうけつ永結えいけつ三途さんず業ごう何況かきやう於お一犯ぼん
- 4 定墮ぢやうだ無間むけん獄ごくとき給へりこの心は一たひ女人を
- 5 見はなかく三途さんずのこうをむすひいはんや一たひお
- 6 かしぬれは無間むけんにおつる事決定けつぢやうなりとのへたま
- 7 へるなりむかし一人の羅漢らかん木の枝えだに鳥からすのゐたる
- 8 をみてうちわらひてとをりければ弟子でしあや
- 9 しみてゆへをとふ羅漢らかんのいはく五百世のあなたに
- 10 うはそくにて有し時淫しんをおかして一人の子をまう

下19オ

- 1 けてむつになる時修行しゆぎやうのために出んとしければ
- 2 我われをはいかになれとおもひて行給ふそといひて
- 3 あしにとりつきてをめきさけひしかはそのたひ

4 はとまりきそのゆへに出離しゆつりの方便ほうべんなくして五百
 5 世の間六趣あひだ しゆにりんゑしてこのたひこそやうやう
 6 羅漢のくわをえたれむかしの六子すなはち此から
 7 すなりとそのたまひけるされはいんよくは第一
 8 の仏道のさまたけ也涅槃經ねはんきやうに女人地獄使能にょにんぢやくし のう
 9 断仏種子外面だんぶつしゆじ げめん似菩薩にぼさつ内心ないしん如夜叉にやしゃとのへ給へり
 10 この心は女人は地獄のつかひにてよく仏のたね

下19ウ

1 をたつかたちはほさつにいたりといへとも心のうち
 2 は鬼のことしさるにや阿育大王あいく だいおうのきさきはまま
 3 子のくなら太子をおもひかけ給ひたりけるをきき
 4 給はさりければ両のまなこをくしり給ひけり
 5 しかのみならずとしころのおつとをままおとこに
 6 ころさするをんな漢家本朝かんかほんてうにかすをしらす又
 7 畜生ちくしやうにとつく物もありこれみな淫慾いんよくのいたす
 8 ところ也よくよくつつしみ給ふへししかれとも
 9 在家のものには一人をはゆるし給へり懷妊くはいにんの
 10 あひた月水の時をいましめられたり男女の契

下20オ

1 りよしとてもなにのゑきかあるへきすみやかに淫いん
 2 慾よくをはなれて無上菩薩むじやうぼだいの心をおこして仏道を
 3 ねかひ給ふへきなり四に不飲酒ふおんじゆと申は酒をのむ
 4 ましき事也天竺てんぢくに長者あり一つの蔵くらの中
 5 に酒をつくれり壺つぼおほきにしてすめる事い
 6 つみのことし長者の妻つまくらにいりて酒のかめをみるに
 7 わかき女のかたちよきありいそきかへりて長者に
 8 むかひて汝をたのみて偕老同穴かいろうどうけつのちきりふ
 9 かしうらみなかりつるにかめの中に女ををきて
 10 われに見せつるはとうらみければ長者ふし

下20ウ

1 きにおもひていそき行て見れはおとなしやか
 2 なるおとこありければ長者かへりて女にいはく
 3 われをすかしやりてまおとこにころさせんするに
 4 こそとて年ころのめをうらみて離別りべつしけれ
 5 は一人の羅漢此事をさとりて酒のかめをみ
 6 れは男も女もなしされは明くれさけをのみのむ
 7 程に酔あひのあまりにほんしやうをうしなひ我

8 かけの酒にうつりたるとはしらすしてかやうにほれ
9 たるうらみ事をいひけるあひた羅漢此酒かめを
10 取出してうちわりて長者夫婦に見せられける

下21才

1 時ふたりかうらみ事やみける又迦葉仏のとき一
2 人のうはそく酒に酔て本心をうしなふゆへに人
3 のめをおかしけつく庭鳥をぬすみころしつぬしはら
4 たちてかこちければさなきよしを論しけりかや
5 うに酒は本性をうしなはする物也されは酒は五
6 戒をやふるかゆへに譬喩經をとき給へり仏
7 説身口意三業之悪行 唯酒為根本不飲閉惡
8 道この心は身と口と心とを三業よりおこるとつみと
9 かはたた酒をもつて根本とするかゆへにのますして
10 惡道をとちよとき給へる又梵網經に酒を

下21ウ

1 とりて人にあたへんものは五百世の間手なきものに
2 むまるとのたまへりいはんやみつからのまんにをひ
3 てをやよくよくつつしみ仏に成給ふへし五には

4 不妄語戒と申てそらことをすへからさるなり
5 口のかは身をはみ舌のとかはつるきとなつて
6 命をきるといふはそら事をいましめたるなり
7 されは地獄にして罪人にむかひて獄卒の
8 いはく妄語の火は大海もやきつへしいはんや
9 妄語の人をやかんには草ふかきかれ野に火をつ
10 けたらんかとし地獄のたききは妄語なりされは

下22才

1 妄語のつみにおちたるものとをきよの事はかすを
2 しらすちかくせうこをあらはせるは紫式部そらこと
3 をもつて源氏物語をつくりしゆへに地獄に
4 おちてくけんをうくはやく源氏をやきすてて
5 一日経をかきとふらふへしと人の夢に見えける
6 とて歌よみとものあつまりてとふらひしなりたと
7 ひかり人の鹿をもとめうしなひてここをしかや
8 とをりつるといはんにかれをころさしかためにしり
9 なからしらすといはんをは妄語なれとも仏も
10 ゆるし給ぬへしをよそこれにあひにたらん事は

下22ウ

- 1 くるしからす此外の妄語はけし程の妄語の事なり
- 2 ともしゆみせん程の苦をうへし也されは恵心僧
- 3 都は年の始にかならず御門の行幸を見給ひ
- 4 けるを御妹の安養の尼と申人のあやしみて
- 5 きみは無極の道心ある人なり何ゆへに年
- 6 ことにおほやけの行幸をは見給ふそとのたまひけ
- 7 れはむかしの十界のちからにていま十善の位にむま
- 8 れ給ひたる事のなつかしければ見たてまつるなり
- 9 されは大臣公卿よりはしめていやしきからかきも
- 10 ちにいたるまで前世の戒力によりて上下のあり

下23オ

- 1 さまをみて過去遠遠のるてんをくはんするな
- 2 りとそのたまひける今世後世めてたき事は
- 3 たた五戒をたもつに過たる事なしたとへはもろもろ
- 4 の悪念煩惱は行者のためにかたき也かのかたき
- 5 をうたんとおもはは善心のせいをそろへて一足
- 6 もしりそく事なかれその時は悪念のまうせいを
- 7 いおとされてにけかくれぬしかりといへともややもす

下23ウ

- 8 れはすきをみて煩惱のやから謀叛をおこす
- 9 おこすといへとも善心のはかり事かしければつる
- 10 に妄念のかたきほろひうせて無為の都のあるしと

下24オ

- 1 なりてなかくたのしみにほこりて二たひ生死をう
- 2 くる事なしいかにも如来の禁戒をたちて後
- 3 の世をねかふへし一生はひとましろきの程なりかへ
- 4 すかへすいるかせに思ふへからすかやうの事をふかく
- 5 しんするをちしやとは申なり
- 6 第四にもろもろの行幸をつみて仏に成へしと
- 7 申は諸仏はみな六波羅蜜を行して正覚なり給
- 8 へり六波羅蜜と申は一には檀波羅蜜布施の事
- 9 也二には尸羅波羅蜜かいをたもつ事也三には羼
- 10 提波羅蜜ものをこらへてあたかたきのとかをも

- 1 思ひなをして人のいたむへき事をわか身におもひ
- 2 しるへきなり四に毘梨耶波羅蜜しやうしんをかた
- 3 くするなり五には禪波羅蜜心をしつかにもちて

4 仏道をもとむへきなり六には般若波羅蜜ちゑ
 5 をもつてまよひの衆生をすすめて極楽へみちひ
 6 くへし此六をあはせて六度万行と申なりされ
 7 はしやうしやり仙人はもとりに鳥の巢をくひて
 8 子をうむにかい子のすたつまではたらかす悉多太子
 9 はたんとく山に入迦葉尊者は鷄足山にこもり
 10 てそおこなひ給ひけりしかのみならず大峯葛

下 24 ウ

1 木をとをり堂をたて仏をつくり経をよみ花を
 2 つみ水をむすふ人みな仏道なるへきをこない也
 3 かもふにんはあゆむ足の下ことに蓮花のひらけ
 4 るなりむかし仏に花をたてまつりしゆへなりむ
 5 かし堂のくつれたりし所に土をぬりてつくろひ
 6 たりし人九十一劫悪道をまぬかれてかひら長
 7 者の子にむまれき仏のはけたりしに薄をを
 8 したりしゆへに未来にかならず仏になりて
 9 光明如来といはるへしとそ仏さつけ給へり
 10 天竺震旦吾朝に心ある人のたれか仏道を修

下 25 才

1 行せざる事のある阿育大王は八万四千の塔を
 2 たて梁武帝は二千九百の堂をたて行基菩薩
 3 薩は四十九院をたて給へりいつれのかたにても
 4 あれ心のひかかんかたをつとめをこなひて仏に
 5 なり給ふへきなり
 6 第五に浄土に往生せんといふ願をおこして仏に
 7 なるへしと申はもろもろの仏菩薩は衆生をあは
 8 れみ給ひてをの願をたて給ふその心おほく
 9 の経に見えたり釈迦如来は五百の願薬師如来
 10 は十二の願阿弥陀は四十八願普賢菩薩は十願

下 25 ウ

1 をのをのこれら衆生をあはれみてすくはんと思召
 2 てちかひたまふ御心さしなりされは心あらん人は
 3 願をおこし仏道を成就して有縁の衆生をみ
 4 ちひき無縁の罪人をとふらふへき也大莊嚴論には
 5 行業は牛の車のことし願は牛かひのことし行の牛
 6 の車あれ共願の牛かひなければ庭をめくる事なし
 7 はやく行業をつみて往生の願をおこして浄

8 土にまうて一切衆生をみちひき給ふへきなりこ
9 こをもつて普賢菩薩は願我臨欲命終時
10 尽除一切諸障碍面見被仏阿弥陀即得往生安樂

下26才

1 国といへりこの心はねかはくはわれ臨終の時にの
2 そまはことごとく一切の障碍をのそひて阿弥
3 陀如来を見たてまつりてすなはち安樂国へ
4 往生する事をえさせしめ給へとなり又文殊は願
5 我命終時尽除障碍面見阿弥陀往生安樂
6 国とこれもまへにおなし心也又いはく誓願不思
7 議西方無量寿極重罪衆生往生安樂国とい
8 へりこの心は阿弥陀のせいくはんほとふしきなる
9 はなし極重の衆生なれとも極樂へ往生すとい
10 へる也されは極重の悪人さへ弥陀のせいくはん

下26ウ

1 にはもれすいはんや心あらむ人にをいてをや
2 又天竺の波斯のく王のむすめせうまんふ人は
3 かたちみにくく髪ちちみ色くろくして人に

4 見ゆへきかたちにあらず然れとも恩愛すて
5 かたくてひとつのろうにかくしをき給へるさるほと
6 に仏をむかへたてまつりて説法をさせまいらせへ
7 きよしおほせられければはしのく王の都のも
8 のともみなみなちやうもんすへき事をいとなみし
9 に時にかのせうまん夫人は人のまへには出ましき
10 人にてましませは此事をかなしみて仏の法をきか

下27才

1 むといふ願をおこし給ひたりければ仏かのろうのう
2 ちへ光をはなち給へり此光にあたりてせうまん
3 ふにんのかたち檀金になりちちめる髪もたち
4 まちにひすいのことくに見えければ大王よろ
5 こびてそののちいよいよ説法を聴聞せられけり
6 これも願力のゆへによりてせうまんふにんのかた
7 ちたんこんに成給ひきせんしやく比丘はあまりに
8 ものはちをしてむまるるたひことにはたかにて
9 むまれしといふ願をたてければうたかひなく物を
10 きて生まれきされは少納言公経は受領して河内の

下 27ウ

- 1 国へ下りけるに一字の堂を建立せんと思ひて
- 2 見ありきければふるき堂あり仏壇のうちを
- 3 見ればよくしたためたる文あり取てひらきて
- 4 見れはその状にいはいく沙門公経うやまつて申一
- 5 堂興隆の願ありといへとも力なくして供養を
- 6 とけすねかはくは来世に当国の国司にむまれ
- 7 て此くやうをとげしめ給へと書きたり此沙門の
- 8 名のりの文字を見ればわかなのりの
- 9 文字とおなし文字なり其時むかしの事をさと
- 10 りて供養をとけたりこれも願力のゆへなり又

下 28オ

- 1 むかし微妙の尼といふものあり宿命通をえてむかし
- 2 の事をかたりていはくわれむかし一人のまま子をにくみ
- 3 てひそかにかしらにはりをさしつ母あやしみて我
- 4 をうたかひしかはおほくのちかことをたてたりきその
- 5 ちか事ひとつもたかふ事なく生生世世にをひた
- 6 りし也今羅漢の果をえたりといへともかしらよ
- 7 り足のうらまで針をとをすやうなるくけんあり

- 8 とそかたりける何事も一念おこす所の願は生生
- 9 世世にはたすなりされは往生極楽をねがはむ
- 10 に阿弥陀如来紫雲にのり西方より来迎し

下 28ウ

- 1 給はん事うたかひあるへからすとをきたとへは申に
 - 2 をよはすちかくは東大寺の得業といつし人大般
 - 3 若供養すへき願をはたさすしてにはかに命お
 - 4 はりけるか閻魔王宮よりかへされて供糧をとけ
 - 5 てほとなく往生せられけり其時閻魔王のさつ
 - 6 け給ひし経文あり般若第一教此経結縁者
 - 7 雖有重業障必当得解脱この心は般若は第
 - 8 一のをしへなりこの経文をけちえんするものは
 - 9 業障をもしといへともかならず解脱をうる
 - 10 といへり其比閻魔王誦せられたる経文な
- 下 29オ
- 1 りとてあまねく諸人申あへり
 - 2 第六に業障をさんけして仏になるへしと申は
 - 3 人界に生をうくるたのしみはさんけの法にあひし

4 ゆへなり道綽^{だうたくぜんじ}禪師^{ぜんじ}の安樂集^{あんらくしゅう}に經文^{きやうもん}を引て
 5 のたまはく人の一日一夜をふるあひたには八億四^{おく}
 6 千の思ひありいはんや念念におこすところ思ひ
 7 の数無^{かず}量無^{りやうむ}辺^{へん}なりこれみな三途^{さんず}の業^{ごう}となる
 8 といへりいはんや一生^{しやうかい}涯^{がい}の業^{ごう}をやいはんや生生
 9 世^ぜの業^{ごう}をや此心^{ししん}をは永觀^{やうくわん}法師^{ほうし}か七だんのし
 10 きにくはしくしるせり心地^{くはんじやう}觀經^{くわんぎやう}には在家^{ざいけ}のもの

下 29 ウ

1 は欲煩悩^{よくぼんなう}のいんをまねく然といへともさんけすればあ
 2 らふる煩悩^{ぼんなう}みなめつして菩提^{ぼだい}の花ひらくさんけすれば
 3 大^{だい}ゑんきやうをみるさむけされはほうしよにい
 4 たる百丈^{ひやくぢやう}の石なれども舟筏^{ふねいかだ}につみぬれは大海^{かい}に
 5 しつむ事なし罪^{つみ}は百丈^{ひやくぢやう}の石のことしさんけは
 6 舟筏^{ふねいかだ}のことしはやくもろもろの業障^{ごうしやう}をさん
 7 けして生死^{くかい}の苦海^{くかい}を渡るへきなりされは普^ふ
 8 賢菩薩^{げんぼさつ}は有相無相^{うさうむさう}せつりこし此三^{しさん}のさんけを
 9 をしへたまへりよくよく心得^{しんごう}しるへしまつ色相^{しきさう}の
 10 さんけといふは無始生死^{むしじやうじ}よりつくりし罪^{つみ}をはち

下 30 オ

1 くやみてほつろていきうしてあるひは本尊^{ぼんぞん}に
 2 むかひあるは賢聖^{けんせい}にむかひてさんける也大經^{だいぎやう}に
 3 いはくもし人罪^{じんつみ}をつくりてかくせはすこしきつみな^罪
 4 りともいよいよ増長^{さうぢやう}すといへりしかれともことはを
 5 さんけして心をさんけせざるはいたつら事也心のつ
 6 みはさんけすれ共さんけせられす一心にさんけ
 7 して業障^{ごうしやう}をほろほし給ふへしこれをまこと
 8 のさんけといふなり次に無相のさんけといふは一
 9 切^{こつしやう}の業障^{ごうしやう}はみな妄相^{まうさう}なり生すれ共有^{うごう}の体^{たい}と
 10 いふものなしこれをりのさんけと申也たとへは

下 30 ウ

1 千年のやみはくらけれどもさんげの一寸のしそ
 2 くをいれぬれは千年のやみははれぬへしたとへ
 3 は業障^{ごうしやう}のたききは千里につみたりといふとも
 4 けしはかりのさんけの火をつけぬれはことごとく
 5 やけうせぬたとへは惡業^{あくごう}の雲霧^{くもぎり}はあつけられ共
 6 さんけの風吹は惡業^{あくごう}のくもきりみなはれて
 7 法性^{そら}の空^{そら}あきらかなりたとへは煩惱^{ぼんなう}の露霜

8 はふかけれともさんけの恵日出ぬれはすなはち
 9 きえうせぬ此心を普賢經にとき給へり一切業障
 10 海皆從妄想生若欲懺悔者端坐思実相衆罪

下 31 才

1 如霜露惠日能消除是故応至心懺悔六情根この
 2 を歌によめる覚樹法師

3 命をも罪をも露にたとへけりきえはともにやきえんとす
 らん

4 前斎宮大輔

5 心よりむすひをきける霜なれは思ひとく日に残らさり晃
 6 懺悔と申は生生世世につくるつみをはち悪業煩惱に
 7 をちをそるるをいふなり一つのせうこそ申へし天
 8 竺に商人ありもろもろのたからをもとめんかために
 9 五百人の友をくして風にまかせて舟を出し大海
 10 を渡る程に色あかくかしの髪あかくして口より

下 31 ウ

1 ほのほを出し目より光をはなちたるもの舟のはた
 2 をとらへていはく汝ら我よりおそろしきもの

3 見たりやといふ五百人のものをの心をま
 4 とはしきもをうしなひて舟のそこへころひふ
 5 してありけるに此中に五戒をたちける俗一
 6 人ありけるか物をいはすは中中あしかりなんと心え
 7 て汝よりおそろしきものありといへははけ物の
 8 いはくいかなる物そきかまほしといふ時にこの俗汝
 9 ら百千万あつめたるよりなをおそろしき阿防羅
 10 刹の中へ我をつれてゆかんとする悪業煩惱の心

下 32 才

1 は汝よりもおそろしきにあらずやといひければこの
 2 ことはを聞てかのはけ物海のそこへいりぬすみや
 3 かに此俗のおもひをなして悪業煩惱にをそれて
 4 業障をはち給ふへし次にせつりこしのさんけ
 5 と云は正法をもつて国をおさめ六斎日物の命を
 6 ころさす父母に教養するを申也正法をもつて国
 7 をおさめるといふはまつり事たしからねは天
 8 下みたる天下みたれぬれば万民のなけき也民の
 9 なけきすなはち罪業なりまつり事のあしき
 10 は今世後世のたたりなりされは魏の文帝は六斎

下32ウ

1 日に物の命をころしたまはすむかし小沙弥しゃみの有
 2 けるかありのひとつ水になかれけるをとりいけたり
 3 しによりて今生の命のひたりきやしや長者は
 4 ひつり池いけにすめる魚うほをとりて大海かいにはなちたるゆ
 5 へに長者の徳をあらはすされは八幡大菩薩ぼさつの御
 6 母神功皇后ははしんこうこうの異国いたいちの御時おほくのせつしやう
 7 をつくらせ給ひしかはその群類ぐんるいをすくはんために
 8 すくなき水にすめる魚うほをとりて大海かいにはなち
 9 給へり今の放生会はうじやう会のまつりことこれなり放生会と
 10 はいけるをはなつゑとかけりたとひちいさきかた

下33才

1 ちをうけたるものなれとも命をおしむ事は泰山たいさん
 2 よりをもしたとひ畜類ちくるいにむまるといへとも子を
 3 思ふ事は人界にんがいよりもすきたりかへすかへす物の命
 4 をころさすしてよくよくあはれみ給ふへし物の
 5 命をたすけぬれは亀雀きしやくにいたるまでもその恩
 6 をしりてかならずかならず後の世にむくふ也これ程の
 7 事はいかなるしつのめなんともしりたる事なれと

下33ウ

8 もしりなからしらぬなりされは仏も重説偈言じゆうせつげごん
 9 とて一たひとき給ひし事なれともかさねかさねの
 10 へ給ひしはよく衆生の耳みみにききたもたせんかため

下34才

1 なりこまかに申にをよはす又ちちははに教養けうやうして
 2 仏になるへしと申はさんけの中の第一のさんけ也
 3 ちちのおんのたかき事はしゆみせんのことしははの
 4 とくのふかき事は蒼海そうかいににたり白き骨ほねは父ちちの
 5 恩おんなり赤き肉にくは母の徳とくなり人むまれて母の乳ち
 6 をのむ事百八十石也水中すいちゆうのかめの子をみる眼まなこしも
 7 夜の鶴つるの子を思ひて鳴なくこゑいづれもおんあひ
 8 いとふかしいはんや人倫じんりんにをいてをやわか身にかへ
 9 て子を思ふためし少少申へし漢かんの高祖こうそ楚その項かう
 10 羽うとたたかふ程に高祖こうそのかたに石奢せきしゃといふつはもの有
 1 項羽石奢かううせきしゃかははを取こめて汝なんぢか子石奢せきしゃを我かた
 2 へよはすは命をたつへしといひけれとも項羽かううは
 3 天下をたもつましきさうありとみて子には

4 たた高祖^{かうそ}につかへよわれは命をすつといひをきて
5 つるきにおちかかりてうせにけりされは心地^{しんちくはん}観^{かん}
6 経^{きやう}には世人^{せにん}為^い子造^{しやう}諸罪^{しよざい}墮^だ在三途^{さんだう}長受^{ちやうじゆく}苦^くと
7 とし給へり此心はよの人は子のためにもろもろ
8 のつみをつくりて三途^{さんだう}におちてなかくくるし
9 みをうくるそとの給へり又吾朝^{わかつう}武蔵^{むさし}の国に
10 むかしひまろといふものありおもはしきめをもち

下 34 ウ

1 もちたりけるか国司^{こくし}の京上^{きやうじやう}しけるともしての
2 ほるへきにて有けるに此めをすてのほらん
3 事をかなしみてきんきのよしをいひてのほらし
4 とて母を山の中にくして行てころさんとする
5 時大地にはかにわれてかのひまろおち入けるを
6 もととりをとりて引あくるは母也子の大地へお
7 ち入事をかなしみてわかいのちのうせん事をは
8 をそれすかたきとなれる子をひきあけしはいと
9 わりなくそおほゆるくはしくはひまろか伝^{でん}にみ
10 えたりこれほとに心さしの浅^{あさ}からぬおやの

下 35 オ

1 ために教養^{けうやう}せさらん人あらんやしかりといへとも
2 天人はたのしみにふけりて教養^{けうやう}の心さしなくして
3 三途^{さんだう}のくるしみにせめらるる也されは仏は御母の
4 けうやうのために忉利天^{たうりてん}にのほり報恩^{ほうおん}経^{きやう}をと
5 き給ひし也極樂に往生したる衆生にむかひ
6 てふかゑんなうのいはくちちはけうやうの往
7 生かしちやうふしの往生かたとふなりされはちち
8 ははけうやうの心さしをもつて極樂に往生
9 せん事これにてもしるへしこれせつりこしの
10 さんけのたいいなり仁明天王^{にんみやうてんわう}は一年か間のつみ

下 35 ウ

1 をさんけせんとして年のはてにかならず三千仏^{さんぶつ}を
2 御名^{みな}をききてそ罪障^{ざいしやう}をさんげし給ひけるこれ
3 を仏名^{ぶつみやう}となつていまにたえすむかしいま
4 の人此心をおほく歌によめる
5 平兼盛^{たいらのかねもり}
6 あら玉の年もつくればつくりけんつみは残らすきえやし

ぬらん

7 みなもとの仲綱なかつな

8 過にしも後もしらるる身のうきにみよの仏のなつかしき

哉

9 第七にもろもろの施せを行すぎやうへしと申は諸仏は

10 みな施せをほどこして正覚がくを成給へりこれを

下36才

1 檀波羅蜜だんばらみつといふ竜樹菩薩りうじゆぼさつは施せを行すぎやう人は

2 月のはしめて出るかことし諸人しよにんにうやまはるると

3 の給へり国城妻子こくじやうさいしをすてん事草木よりもかる

4 く頭目手足づもくしゆそくを施せする事土石どせきよりもやすくす

5 へしここをもつて法花経ほふくけいには国城妻子こくじやうさいし頭目髓腦づもくすいなる

6 身肉手足しんにくしゆそく不惜身命ふしやくしんみやうとき給へりこの心は法の

7 ためには国処女子くにどころによしへめこへはいふにおよはす五体六根たいろつこんをよ

8 ひ命いのちをおしまされとをしへ給へりされはじひ大

9 王は鳩はとにかはりてみつからのししむらを鷹たかにあ

10 たへさつた王子はうゑたる虎とらにわか身をほどこし

下36ウ

1 せつせん童子とうじは無常むじやうの文に命をかへ舍利弗尊しゃりほつそん

2 者はまなこをぬきてこつげん波羅門ばらもんにとらせ

3 し也これならす施せに心さしの有人少少申へし

4 阿闍世王あしやせわう仏をむかへまいらせて説法せつぽうさせたてま

5 つりて夜に入て仏の御かへりありければ阿闍世王あしやせわう

6 宮より祇園精舎きおんしやうじやまで火をともし給ひけるに貧ひん

7 女の銭式文せにせきぶんもちたりけるかこれをあふらにかへて

8 ともしたりけるかゆへに三十一劫をへて仏になる

9 へしとて須弥灯光しゆみとうくわう如来とそさつけ給ひしこれを長

10 者の万灯ばんとうより貧女ひんだよの一燈いとうとは申なり後の世は申に

下37才

1 をよはす今生けいじやうに徳をあらはす事おほきなり

2 天竺てんぢくにゑしあり伽毘羅城かびらじやうにしやうようをえて

3 行ぬ妻子さいしたちゐにまつ程に世の中を過わひて

4 ゑしのかへるをたのみておほくの人の物をかりてつ

5 かひて月日ををくりけるにゑし十二年といふに

6 金かねを三十両えてかへるに道のほとりに堂のありけ

7 るに仏に薄はくををさんとして金をすすむるひしりあり

8 ゑしおもひけるは家にもちてかへりてはた今生けいじやうの

9 たからにてあらんすれ仏にまいらせて生生世世

10 のたからになさんと思ひて此金を仏にまいらせけ

下 37 ウ

1 る手をむなしくして家にかへりけるに妻子さいしより
2 こひて何をかもちてかへりきたるととへはありのまま
3 にかたりけるを聞て此ほとたのみまちつるかひも
4 なく今ははやまとひものに成ぬとかなしみなけ
5 くをおほやけに此事をきこしめして心おほき
6 なる物なり国のつかさしるへしとて国のかみに
7 なし給へり今生しやうの利生りしやうかくのことし後生ごしやうのうつた
8 へおもひやり給ふへしされは仏の御はたへの金色こんしき
9 なる事はゆをわかつて人にあひせ給ひしゆへ
10 なりここをもつて光明くわうみやうくわう 皇后はゆをわかつてみつ

下 38 オ

1 から人の垢あかをすり給ひけるにおそろしけなるかつ
2 たいのわかあかすりてたへといひければ願ぐわんをやふ
3 らしとてひそかにあかをすり給ふとて此事人に
4 ないひそとのたまひければかつたい又阿閼あしやく仏の
5 あかすりたりと人にないひ給ひそ后きさきとてかきけ

6 すやうにうせけりされは阿閼しゆくおつへんけ仏変化し給ひてか
7 の心さしの程を心み給しなり仏施せのくとくをほめ
8 給ふに十方じふぱうの国土こくどをちりとなしてその国の草木
9 瓦礫くはりやくとしり三千世界の水を大海かいにいれてその
10 河の水とはしるとも施のくとくはたやすくかそ

下 38 ウ

1 へつくすへからすとの給へりされはくひ物を人
2 にあたふるは五ごの徳とくをあたふるといへり一には命二
3 には色三には力ちから四にはやすらかなる事五にはこと
4 はなりこの五の事は物をくはされはいつれもかな
5 はすかうけんしゆといふ木のみはけしよりもちい
6 さけれども一夜に百丈ひゃうぢやうおひのほりてそのかけ
7 に五百両の車をかくす施せのくとくはかのことし
8 少しきくとくなれともかならず地ちくにてお
9 ほきなるたすけとなれりされは獄卒ごくそつ罪人
10 にむかひてなとくとくをはせずしてならくの

下 39 オ

1 古郷こきやうへはかへりたるとそといへは罪人ざいにん貧苦ひんく無福むふく

- 2 にしてたからをほしかりしゆへにすこしの善根を
- 3 もなきすといへは獄卒いかれるまなこを見ひら
- 4 きてはけしきこゑをあけていはくいたつらに
- 5 野辺にさきし花一枝仏に施したてまつらん
- 6 心しまつしきによるへからすむなく谷に
- 7 なかる水一むすひ僧に供養し施さん事た
- 8 からのなきによるへからすとそ申けるはやく一
- 9 花一水なりとも仏法僧に施して仏になり
- 10 給ふへし

下39ウ

- 1 第八に観念をおこして仏道をいのと申は
- 2 祖師先徳みな観によるかゆへにみな得道せし
- 3 なりたとへは將軍になりたる人の翠帳のうち
- 4 に臥なからはかりことを万里の外にめくらし天
- 5 下をおさむるかことしかしき人は柴のいほり
- 6 の内にゐながら十萬億のほかなる極楽浄土
- 7 の多ほう莊嚴を觀して往生の本意をと
- 8 くる物なりされは浄土しやうせつは観念のたな
- 9 こころのうちにありといへりあるひは弥陀如来

- 10 の功德池のほう蓮台にさしてはるかに光明

下40オ

- 1 をはなち給ふ事を觀しあるひは七樹宝樹の
- 2 下に觀音勢至の二菩薩大ぼんわか御声
- 3 して説法し給ふ事をくはんしあるひは紫雲
- 4 にのりて西方にあらはれ給ふを觀しあるひは
- 5 六十萬億那由他恒河沙由旬の大身を觀し
- 6 あるひは眉間白毫の五しゆみのやうなるを觀
- 7 しあるひは宮殿樓閣の飛行するをくはんし
- 8 あるひは上品蓮台の曉のたのしみ声をくはん
- 9 しあるひは覺雁鴛鴦の五根五力の法文を
- 10 さえつるを觀して八十億劫の罪障をのそぎ

下40ウ

- 1 てつゐに安養しやうせつに往生するなりくはし
- 2 く觀無量壽經にとき給へりこれを十六相觀
- 3 といふあるひは諸法の空寂なる事を觀しある
- 4 ひは此身の不定なる事をくはんしてみな往
- 5 生極樂の因とするなり真如実相を觀すると

6 いふは心仏及衆生のおもひをなして是三無差別と観するなりこの心は心と仏と衆生とこの三はしやへつなしとくはんする也一切衆生悉有仏性如来常住無有變易とのへ給へりこの心は一切の衆生はこととく仏性あり如来

下41才

1 常住にして変する事なしといへりこのゆへに心ある人はみな一色一香無非中道と観して真如実相一つなりとしるなり不輕菩薩の不敢輕慢とおかみ給ひしも一切衆生仏性をくしたりとくはんし給ひしなり生あるものはいづれか仏性をくせさるへき我等かむねの中に本覺の心法身の妙法の蓮台にさして三十七尊かた時もたちさり給ふ事なししかりといへとも生死長夜のやみふかくして本有常住の月の光をかくし四智円明の鏡にちりつもりて三身

下41ウ

1 満徳のかけうかふ事なしされは大集經には菩提を

2 はなれ一法ある事なしとをしへ給ふなり我も仏人も仏なりとくはんして真如実相一つとしり給ふへきなりむかし僧多羅と申ける法師あり無智もんまうにしてさとる処なしたた口には三十七尊ちうしんしやうととなへ心には真如実相の思ひをなすより外別の行なし命終の時天衆来迎し給ひて都卒の内院にむまれぬ此せうをみて不空三蔵つねに帰命本覺眞法身常住妙法心蓮台本来具足三身徳三十

下42才

1 七尊住心城ととなへて真如実相を觀し給ひけるを弟子あやしみてかはかり不淨なる身の中に三十七尊妙法の心蓮台にましますらんこそうたかはしけれといひければ三蔵仏の御まへにして此くはんねんをなし給ふ時三十七尊むねの間にあらはれて十方にひかりをはなち給ひき弟子これを見てうたかひの心をひるかえし隨喜の涙をなかしき木には春花さきて秋このみをむすふ木をわりて見れば中には花も

10 なしこのみもなししかりといへとも縁のいたりぬれ

下42ウ

1 は花さきこのみをむすふ人の身のうちをみれば
 2 妙法の蓮台もなく三十七尊も住したまはす
 3 しかりといへとも真如実相を觀すれば三十七尊
 4 あらはれ給ふ也たとへは大海の底にある石に
 5 火のせいありといへとも無量歳をへても火の
 6 せいをあらはす事なししかれとも人此石をとり
 7 あけてひうちといふ物をあつれば火を出さす
 8 といふ事なし三十七尊又又かくのことし觀念せ
 9 さる人のためには大海のその石のことしはや
 10 く觀念をいたして心の月輪かたちをあらはし

下43オ

1 たまふへしたたし此觀念をなましひの智者
 2 などはかなふへからすしかりといへとも仏
 3 と衆生と一つなりと觀念すへしひとつの
 4 たとへを申へし人のおやとをき所へゆきて
 5 大事のやまひをうく二人の子をもちたるに

6 一人の子はゐたる所ちかし一人の子はゐたると
 7 ころとをしおやのもとよりやまひするよし
 8 をつけけるにちかき所にゐたる子ははしりいてて
 9 おやのもとへ行けるにあまりに雨ふり日もく
 10 れて夜に入ければ行ききも見えずおそ

下43ウ

1 ろしかりける程に塚穴のありけるにいりて夜あけてゆ
 2 かんと思ひてゐたる所に今一人の子はゐたる所とをく
 3 して後にゆきけるかこれもあまりにくらくて夜
 4 をあかさんと思ひてかの穴に入ぬるところにもと
 5 入たる子はおにのくらひにきたると思ひて心を
 6 まとはすいま入子は穴のうにおに有てわれを
 7 くらはんとするとおもひてきもつふすかくて二
 8 人の子本性をうしなひてゐたるほとにやう
 9 やう夜もあけて心を取りしつめて見れば兄弟
 10 なり衆生もかくのことし生死長夜にまとひ

下44オ

1 無明の鬼ありとおもへは善根の暁になりぬれ

- 2 とも真如実相しんにょじつさう一つなりとしるなり悪業煩惱あくごうぼんなう
- 3 のまなこのまへには仏と衆生と差別しやべつあ
- 4 りと見れ共真如実相しんにょじつさうをさとりぬれは心仏しんぶつ
- 5 及衆生差別ぎつしゆしやうしやべつなしとしるなり又空観くうくはんと申は
- 6 色即是空しきそくぜくうのおもひをなして諸法しよほうをむなし
- 7 としる無大無小たいせうの観くはんをいたして一切ありとお
- 8 もはぬなりされはふるき詩しにもかくこそつく
- 9 りけれ身をくはんすれば岸きしの額ひたいに根ねを
- 10 はなれたる革命くさいのちを論ろんすれば江えのほとりに

下44ウ

- 1 つながざる舟この心を歌によめる
- 2 世中をなににたとへん朝ほらけ漕行舟こぎの跡の白浪
- 3 このゆへに人もむなしわれもむなしこれもむなし
- 4 しかれもむなし万法ぼうみな空くうなりとくはんすへし
- 5 されは煩惱ぼんなうの草むらしけき中に悪業あくごうのこ
- 6 らうふすといへとも空観くうくはんの火をつけぬれ
- 7 は煩惱の草むらやけうせて悪業のこら
- 8 ふすむ所なし此観しいたりぬれはむしやうの
- 9 罪障ざいしやうはみなきえうせてつるに菩提ぼだいのきし

- 10 にいたれるなりむかし仏の御弟子でし道を行給

下45才

- 1 ふに農夫のうふ二人して田をつくりけるか一人にはか
- 2 に死にけり今一人これをかなしめるけしきな
- 3 しふしきにおもひ給ひて此事をとはれければ
- 4 農夫のうふわか子也とこたふその時仏弟子ぶつてし他人のしぬるさへ
- 5 みれはあはれをもよほすなるにいはんやおんあ
- 6 いふかき子の死ぬるを見ていかてかなけきかなし
- 7 まさるととはれければ農夫のうふのいはく一とせ仏の説せつ
- 8 法ほうし給しに此身はむなしきものなりありと
- 9 おもふへからすとかせ給ひしなりされはいまさら
- 10 おとろくへからすといひけりあまりにふしきに

下45ウ

- 1 おもひてかの家に行て母に此事をいひければ
- 2 おなしやうにいひてうちわらひてありければそ
- 3 の時仏弟子かかるといひやしき田夫でんぶなりといへとも
- 4 空観をくはんける事ありかたさよと随喜ずいきの
- 5 涙をなかし給ひて心あらん人は諸法しよほうの空なる

6 事を觀し給ふへし外道げたう仏弟子でしにあひたてまつ
7 りて仏は諸法しよほうを空くうなりとのたまへともむかし
8 あるくるしみは今もありむかしあるたのしみは
9 いまはあり火はあつく水はさむし何をもつ
10 てか空なりといはんと申ければ仏弟子ぶつてしこたへ

下46才

1 ていはく大焦熱せうねつ地獄の衆生はくるしみ忍ひかたし
2 といへとも無間むけん地獄の衆生のためには他化自在たけじざい
3 天のたのしみを見るかとし金輪きんりん聖王じやうわうの果報くわはうは
4 たのしけれとも四天王のまなこの前には等活とうくわつ地
5 獄の罪人ざいにんを見るかとし人間の火はあつけ
6 れとも地獄の火にくらふれば水のことし娑婆しや
7 婆の水はさむけれともならくの水にくらふれば
8 火のことしたのしみもたのしみならずかなしみも
9 かなしみならずとその給ひけるはやく此思ひを
10 なして諸法しよほう皆空みなくうなりと觀し給ふへきなり

下46ウ

1 又不淨ふじやうくはん觀と申はわか身人の身も不淨なる事

2 を觀するなりたとへは絵書えかきたるかめの中へふんゑ
3 をいれたるかとし業平なりひら中将じやうのよろづ貴賤きせん男
4 女におもひをかけられしも西施せいしか一たひえめは
5 千金をおしむ人なかりしもつるには野のほ
6 とり河の間にすてられしかはそのすかたみ
7 なかはりしろきはたへはあをくくさりあ
8 かきくちひるはくろくなりてたたれやふれ
9 てむしわきいつるなりいぬは手あしをくらひて
10 西南せいなんにはしり鳥はまなこをくしりて東とう

下47才

1 北ほくにとふくさき香をとくにほひおこせはあたりに
2 ちかつく人もなしつるによもきかもとのちりと成
3 て白骨はつこつはかり所所にのこれり心あらん人たれかこれ
4 に着心ちやくしんをなさんやと此觀念をなさん時かならず
5 むし生死せいじの罪障ざいしやうことごとくめつするなり此ゆへ
6 に恵心ゑしん僧都そうづは不淨ふじやうくはん觀をなさんと思ははつね
7 に墓つかのほとりに行て死人のかはねを見よとそ
8 のたまひける觀念によりてつみもかへりて功
9 徳とくと成事ありされは仙預王せんよわうは仏をもちひぬ

10 もちひぬものをころし東光梵士はおもひかけ

下47ウ

1 てあはすは身をなけんといひし下女をおかしけり破
 2 戒なりといへとも観念によするかゆへに浄土の縁
 3 となる也されは弘法大師は智者のつくるつみ
 4 はおほきなれとも地獄におちす愚者のつくるつ
 5 みはちいさけれとも地獄におつとおほせられける
 6 これすなはち観念によれるかゆへなり煩惱即
 7 菩提といひ因欲即是道愚痴亦如是ととける
 8 もこれなり昔達磨大師天竺にて修行し
 9 給ひける時無智の僧二人ありけるか碁をう
 10 つより外の事なし見る人これをにくみきく物

下48オ

1 かれをそしる達摩しつかにこの事をとひ給ふ
 2 とき二人の僧こたへていはくくろの死する時
 3 は黒煩惱のうすることよろこひしろのし
 4 する時は白ほう善根のめつする事をかなし
 5 みて無上菩提を観念するなりと申けるに

6 あはせて命終の時聖衆来迎のそくはいをと
 7 けたりきされは観念をもつて往生せん事う
 8 たかひあるへからす仏忉利天より一夏九十日過て
 9 天竺へかへり給ひて我をはたれかはやく見つ
 10 るとおほせありければそしき比丘こそ一番

下48ウ

1 におかみたてまつりつれと申ければ仏の給ひ
 2 けるは須菩提か石室に入て坐禪して空寂
 3 を観せしより外に我をとくみたるものなしと
 4 ありし時みな不審にぞ思ひける仏は若以色
 5 見我以音声求我是人行邪道不能見如来
 6 の心をもつておほせられしなりされは禅法修
 7 行こそたれもあらまほしき事なれとも心なし
 8 あさくてはかなはぬ事なりしかれとも心あらん人
 9 はねふりをさまして観念をいたして仏と衆生と
 10 へたてなき事をしりたまふへし仏と衆生とへ

下49オ

1 たてなければ地獄も極楽もへたてなく獄卒

2 罪人^{ざいにん}のへたてもなしよくよく修行し觀念し
3 て大涅槃^{ねはん}に入給ふへし

4 第九に善知識^{ぜんちしき}にあひて仏になるへしと申は

5 一生^{しやうがい}涯の間十惡五逆^{あくごぎやく}をおかせる人命終^{みやうしじう}の時になり

6 ぬれは阿防羅刹火^{あほうらせつ}の車をくしてまなこのまへ

7 に現すといへとも善知識^{ぜんちしき}のをしへによりてもしは

8 十念もしは一念弥陀^{みだつた}の名号をとなへ又くるしみに

9 せめられて口となへすといふとも西方^{さいほう}にむかひ

10 てそなたに仏ましますと心のうちに思へは火

下49ウ

1 の車たちまちにうせて花のうてなのまへに現

2 す此ゆへに法花經^{ほふかうきやう}にも善知識^{ぜんちしき}者是大因縁^{だいゐんえん}とは

3 とき給へり阿弥陀如来^{あみだぶつ}はなたいゑ国の無靜念^{むじやうねん}

4 王と申せし時法界梵士^{ほふかいぼんじ}のすすめによりてくう

5 わう仏にたてまつり給ひて仏道をきはめ有縁無^{うゑんむ}

6 縁の衆生をもらさすくひ給はんとの御せいくは

7 むふかくおはしませは末法万年^{まつぽうまんに}まで弥陀の一

8 教をたのみ給ふへきなりされは後の一條院^{いちじうゐん}

9 の御とき宇治殿頼通^{うぢどのよりみち}の延曆寺^{えんりやくじ}へ人の仏道なる

10 へき要文^{ようもん}を諸經の中にてしるしまいらせよと

下50オ

1 おほせつかはされけるに若有重業障^{じやくうぢやうしやう}無生淨土^{むじやうじゆど}因

2 乘弥陀願力^{せうみだとくしやうぐらう}必生安樂國^{あんらくこく}極重惡人^{ごくぢゆうあくにん}無他方便唯^{たはうべんゆい}

3 称弥陀得生^{せうみだとくしやう}極樂三塔^{ごくらくさんたう}の学匠^{がくしやう}たちあつまり

4 て此文をかきぬきてそたてまつられけりまこと

5 に我等濁世末代^{じやくせまつだい}に生をうけて過去^{くはこ}をんをの

6 諸仏にもすてられまいらせて無始生死^{むしやうし}より

7 六道に輪廻^{りんゐ}して大くなうをうくる身を他の

8 方便かなはされとも弥陀を称念^{せう}せは極樂^{ごくらく}へむ

9 かへんとちかひ給ふ御慈悲^{おんじひ}をいかなる人かたのみた

10 てまつらさるへき諸仏の御せいくはんいづれも勝劣^{せうれつ}

下50ウ

1 おはしませねともとりわき弥陀の願力^{ぐはんりき}にすぎ給

2 ふへからすされは阿闍世王^{あじやせわう}は父をころし給ひし

3 かとも耆婆大臣^{ぎはじん}のをしへによりて靈山^{れうせん}の聴衆^{ちやうしゆ}

4 につらなり給ひて成仏し給ふ又不動國^{ふどうこく}の

5 こんしゆ太子のうき事にあひて出家せしをは

6 仏は善知識ぜんちしきにあへる人なりとそおほせられける
7 我朝わがにもかやうのためしおほしみなものと満仲みつなか
8 はあまりに罪ふかくて仏法の名字をしらぬ事を
9 かなしみて源顕法眼げんけんぼうげんと申し子のありしは延暦えんりやく
10 寺じより恵心僧都えしんそうづそのほか座主などをかたらひ

下51才

1 多田ただの家に行て物かたりとをさせければかの満
2 仲なかつことはりを聞てやかて道心だうしんをおこし法師に
3 成て夏なつかひの鷹たか三百もとはなちおほくの網あみ
4 ともやきすててなく殺生せつしやうをとめて仏を
5 あかめたてまつりけりこれらをまことの善知識
6 にあへる人と申なり又みなものかねなりかおも
7 はしきつまをもちたりけるか二三日か程なる所へ
8 行けるにやかてかへらんするよしをかへすかへすかた
9 らひをきて程なくかへりて見れはめんめんはかと
10 にたちてなきかなしむほとにいかなる事そとい

下51ウ

1 ひけれは御まへはよへうせさせ給ひてやかて鳥

2 部野へをくりまいらせぬといふを聞心もうせまと
3 ひふむところもおほえさりけれともすなはち
4 野辺に行て見れはなかなかなる髪かみつきな
5 からあたらしきかしらを犬かかへてくらひののし
6 るをみていのちもうせぬへくかなしかりしかとも
7 心を引かへて法師に成てかくそよみける
8 ありしこそかきりなりけれあふ事をなと後の世と契らさ
りけん
9 かくてなく仏道を修行しゆきやうしけり大江のさたもとか
10 おもはしき妻つまにをくれて法師に成てもろこし

下52才

1 まてまかりけるか母ははのために高雄たかおの寺てらにて八講かう
2 おこなひてせいせう法橋ほつけうをしやうしてせつほうさ
3 せけるめいく日の東ひかしにいてんをみては母ははの古郷こきやうに
4 ある事をわすれされ月にじの西にかたふかんをみては
5 上人たのくにある事をおもひ出よといはれしを
6 きく人有しかたく忍しのひかたくや思ひけんあるひは
7 車くるまのうちより髪かみをきりて出すものもありある
8 ひは笠かさの下よりもとりをきりて出すものも

9 ありかれこれ五百余人ありかくのことくうきめを
10 見かなしき事にあひて出家とんせいするものを

下52ウ

1 は仏は善知識にあへるものなるそととき給へる
2 はやくいそき善知識にあひて年の若き時つ
3 とめ行して仏に成給ふへし
4 第十に臨終に悪念をとめて仏に成へしと申
5 はたとひ竹馬の時より八十あまりにをよふまで
6 にんにくしやうしんして念仏しよきやう恭敬礼
7 拝するとも臨終の時一念の妄心をおこせはかな
8 らす生死に輪廻すへきなりある長者のこか
9 ねのかまをもちたりけるを臨終の時一念おしと
10 思ひしによりて大蛇となりてわたかまりぬ又

下53オ

1 舍衛国の女かかみをみて我影よしと思ひしゆへに
2 かつかいのなかのむしとなれりされは臨終のときお
3 もはしからんめこなとや心とまりぬへきたからな
4 とをはみすへからすとは申ぬれむくう律師は天井

5 に甘貫文のれうそくをきたりしを臨終のとき
6 あなちおしとはおもはねとも何となく思出しける
7 ゆへに蛇になりて天井にすむ年ころのたんな
8 枇杷の大臣の夢にわれ命終の時一念の妄心によつ
9 て天井にをきたる銭の中にありはやくかの銭をと
10 りて三宝をくやうせよと見えければ大臣夢

下53ウ

1 さめてやかて律師の坊に行て天井を見れば甘貫
2 文のれうそく有其中にちひさき蛇あり大臣
3 涙をなかしてかのれうそくをもつて法花経をか
4 き供養したてまつりける夜の夢に此くとくに
5 よりて得脱しぬるよしをいてそののちは蛇見えす
6 されは花をのみあいするものは胡蝶になり鳥
7 をかふものは畜生にむまるるなりはらない国
8 に頭陀と云人のありけるか仏に申さくいか
9 なれば百年功德うくる物の地獄におち百年
10 つみをつくる物の仏になると申ければ仏つけ

下 54 才

- 1 てのたまはく百年くときをつくるものの地獄に
- 2 おつる事は臨終の時悪念をおこすゆへなり
- 3 百年つみをつくる人の仏になるは命終の時弥陀
- 4 を称念するゆへなりとおほせありける此ことは
- 5 りをしりて夢まほろしの世中をいとひて
- 6 心をとめ身をおしますして一すちに弥陀
- 7 を称して往生のそくはいをとけ給ふへきなり
- 8 第十一に法花経を修行して仏になるへしと
- 9 申は三世の諸仏出世の本懐一切衆生成仏
- 10 の直道は此経なりされは五障の女人も仏

下 54 ウ

- 1 になれるなりしかるに此経をかきくやうしける
- 2 れうしを市にてかいたる女人さへ冥途のやみ
- 3 はれぬ硯の水を入るけちえんさへ地獄のほの
- 4 をきゆる也無二亦無三法花経第一とき給ふ
- 5 わたりに舟をえたるかことく子のははにあへるかこ
- 6 とくにたのみてはやく受持読誦解説書写し
- 7 て仏に成給ふへし一聞法花経決定菩提

下 55 才

- 8 といへりよくたまをこなひて往生の願をとけ
- 9 給ふへきなり仏も歡喜し神も隨喜し
- 10 給ふなり此ゆへに伝教大師これをかうすれば

下 55 ウ

- 1 八幡大菩薩むらさきのけさを施し空也上人
- 2 これをよみしかは松尾の大明神寒風をふせ
- 3 き給ひきいはんや後の世のたすけとなる事申
- 4 にをよはすあたこのじやうじんあさはあかつき
- 5 法花経をよみゐたりければ都卒天人道場
- 6 にたちそひけるにかたはらの坊の人の目に
- 7 見え給ひければみなふしきにそ思ひけるこれは
- 8 ことにちかき事にあらすやむかし提婆菩薩
- 9 獅子国にましましてある海のほとりをとをり
- 10 給ふとて見給へは五百餓鬼ありかれらくるしみ
- 1 のあるよしをなけきけり聞につけ見るにつけて
- 2 あはれにむさんにおほしめして法花経を一品は
- 3 かりよみ給ひければ餓鬼聴聞してかなしみの

4 なみたをなかしておかみたてまつりけりそののちほ
 5 さつの夢に五百の天人さうがうたんごんにして
 6 身にはみめうのやうらくをかけそらより来りては
 7 我をおかみける程にあやしみていかなる人そと
 8 とはれければ天人こたへていはくわれらは獅子国
 9 に百千劫の間よにたへかたきくるしみをうけたりし
 10 餓鬼ともなりしか菩薩の法花経をよみ給ひ

下56才

1 しを聴聞したりしゆへにみな切利天に生まれたる
 2 なり今よりのちは悪道へかへるへからす仏道を
 3 修行すへしとよろこひけりされはうはなり
 4 のよむ経をとりつきたりし結縁さへ天より光を
 5 はなつはやく信をいたしてよみ給ふへきなり
 6 又後の世までは申にをよはす関白よりみちは
 7 具平親王の御むすめをすて三條院の御むこ
 8 になり給ひしに関白御物のけの病をして大事
 9 に成たまひける間驗者には心誓僧都みやう
 10 けん阿闍梨陰陽師には賀茂のみつよし

下56ウ

1 安部のよしひらなとまいりてこゑをたてちから
 2 をつくししかともしるしなくてすてに引きいり給ひ
 3 しによりみちの御父おむろの関白道長みつから
 4 法花経の寿量品をかみ一まいはかり二三返よみ
 5 給ひてかほにかほをあててなき給ひければより
 6 みちのものと御しうと具平親王のあらはれ給
 7 ひてたれも子のいとをしくなしきはおなし
 8 事なり我はかなくなりて後わがむすめをすて
 9 たよりなく物を思はせ給ふかうらめしければた
 10 すけたてまつらしと思へとも法花経にかたさ

下57才

1 たてまつりて此たひはかへるなりとその給ひけるさ
 2 てもとの北の政所へ御迎車をまいらせて此よし
 3 を申させ給ひたりければおんあいの道はこの世は
 4 かりといひなから草の陰までもこれ程にあさから
 5 すおほしめしけるよと御涙にむせひ給ひて
 6 おはしけるをやうやういさめまいらせ御車にのせ
 7 られていらせ給ひぬよりみちの御やまひもなを

8 今にいたるまでくはんはくてんか関白殿下と申はその御子孫なり
 9 悪あく霊りやうじや邪氣もをそれたてまつるは法花経なりい
 10 かてか冥官みやうくはんみやうだう冥道もかたさりたてまつる事なからん

下 57 ウ

1 されは現世げんぜあんおん安穩まのあたりにせうこあり後生善ごしやうぜん
 2 処しよなをうたかひあるへからす無二亦無三のころを和泉いづみ
 3 式部しきぶかよめる
 4 ふたつなくみつなき法を聞つれば五のさはりあらしとそ
 思ふ

5 藤原のきよすけの朝臣のよめる

6 ふたつなきみのりの舟そたのもしき人のさらても渡すわたと
 思へは

7 かへすかへす此経をしんかうしたてまつりて仏道を成し
 給ふへし

9 第十二に弥陀を称念せうねんして極楽ごくらくに往生わうじやうし給ふへし
 10 と申は恵心僧都ゑしんそうづの往生要集わうじやうしゆには五ねんもん

下 58 才

1 をたてたり諸仏菩薩しよぶつぼさつも仏道をもとむる人をは

2 阿弥陀仏ここへまいれとをしへ給へり薬師やくしは八菩ぼ
 3 薩さつをして極楽へをくらんとちかひ給ふ観音くわんおんは
 4 わか本地阿弥陀如来を念したてまつれとをしへ
 5 給ふなりしかのみならず諸教所讃しよけうしよさんたざい多在弥陀と
 6 て八万聖教しやうげうの中にも弥陀の功德くどくすくれたりとそ
 7 ほめたてまつりけるもろもろの菩薩ぼさつ仏に申給ふ
 8 やういかにしてか濁世ぢよくせ末代まつだいの衆生たやすく仏に
 9 成へきととひたてまつり給へは仏のたまはく百
 10 八のもくれんしゆをつらぬきて弥陀の名号みやうごうをとな

下 58 ウ

1 へよとそおほせありけるかへすかへすうたかひをなす
 2 事なくしてある時は西方さいほうにむかひて礼拝らいはいして
 3 ある時は声をあげて名号みやうごうをとなへある時はま
 4 なこをふさきて弥陀の光明くわうみやうを觀くはんせよ頭かしらのかみに
 5 火ひのつきたるをけつることく後の世のいとなみをす
 6 へしあすをまつ事なかれたとへは人の道をゆかに
 7 ぬす人にあひてものをとられしとてにけはしるに
 8 跡よりぬす人をいきたる程におほきなる河あり
 9 きたる物をぬきて渡わたらはぬかんほとにぬす人をい

10 つくへしきなからわたらは河におほれてやしなん

下59才

1 すらんと思ふことくおもひましゆる事なく弥陀を称念
2 し極樂をねかふへきなりたとへはたのしき人の子のあや
3 しの人ぬすまれて外の国にゆきてしもへと成てつか
4 はるるかいかにもしておやのかたへゆかはやと思ふかこと
く

5 弥陀を称念して極樂へ往生すへし善導和尚の
6 定にいりて極樂を念し給ひけるには弥陀如来かなら
7 す現して物かたりし給ひける此よしをきき導禪師
8 の往生すへき事とひたてまつり給ひければたとへ
9 をとりてをしへ給ひけり木をきる時ははやく斧
10 をくたせ家にかへらんおりはつかれを忘れよ木をきる

下59ウ

1 に斧ををそくくたせははやくきる事なし家にかへる
2 につかれをおもひて道にやすみぬれはをそくかへる
3 なりされはおこたる事なく道を行かことく弥陀を念
4 し極樂をねかふへし極樂を念するひしりに人

5 の物をとひければたたいま一大事ありとそ申ける
6 極樂をねかはん人はかのひしりのやうにこそあらま
7 ほしき事なれ又天竺震旦の事は申すにをよはす
8 吾朝にも行業をつみて往生のそくはひをとけ
9 し人おほしことことくしるしつくすへからすしかれとも
10 これも念仏年つもりたる人ともなれはことほり

下60才

1 なりたた一念のちからによりて往生したる人の事は少
2 申へし讃岐国多度の郡に源大夫といふものあり
3 狩せんとして野に出けるかしくれのしければ人里のある
4 ところにはしりゆきて見ればおほくの人あつまり
5 て寺にてかうをこなひけるをこれは何事をする
6 そととひければかうおこなふよしを申けるかうとは
7 何事そととへは仏に物を申なりといふ仏とはいかなる
8 ものそといひければかうおこなひける僧仏とはこ
9 れより西方に極樂といふ国のあるしとおはし
10 ますなり阿弥陀仏といふその御名をとへて心

下 60ウ

1 にかけたてまつれは命のおはる時かならず来り給ひ
2 て極楽へむかへ給ふなりといひければいささらはわれ
3 もゆかんとて法師に成て西にむかひて阿弥陀仏
4 阿弥陀仏となへてあゆみさりぬかうおこなひける僧あま
た

5 ふしきに思ひて其跡つきて見をくりければ海のほ
6 とりに松の木のあるにのほりて西にむかひて死に
7 たりちかくよりて見れば口より青蓮花しやうれんげおいて異香いきやう
8 くんしてそありけるされは心さしせちにあれば一
9 念の功力くりきにてかならずかならず往生すへきなりされはふ
10 るき詩しにもかくこそつくりけれ十悪あくといふともなを

下 61オ

1 引接いんせうす疾風しつふうの雲霧うんむをひらくよりはなはたし一念と
2 いふともなを感じかんじす巨海こかいの涓露けんろをいるにたとふともかき
3 給へりされは此心は十悪あくの衆生しゆじやうをもみちひき給ふ
4 事は風の雲霧くもきりをはらふよりもはやし一念の衆生
5 をもすくひ給ふ事は大海かいのすこしきなかれをいと
6 はさるかことしといふなり十悪あく五逆ぎやくのものさへ弥陀の

下 61ウ

7 ひくはんにはもれすいはんや弥陀をたのみたてまつり
8 一生の間せうねん称念せうねんせんものにをのにをいてをや弥陀
9 如来くわんをんせいし觀音くわんおん勢至せいしをくし給ひて来迎らいかういんせう引接いんせうし給はん
10 時をおもひやり給ふへし万徳まんとく莊嚴しやうげんの教主けうしゆ西方

1 にあらはれ九品ほん蓮台しやうじゆしやうんの聖衆ななめ紫雲むすしののりて斜
2 にくたり光明くわうみやうかくやくとして十方せかい世界せかいをてらし
3 異香いきやうふんふんとして草木そくみな沈檀しんたんのにほひを
4 なす觀音くわんおん法蓮台ほうれんだいをかたふけ給ふ勢至せいし手をさつ
5 けて引接いんせうし給ふ妓樂ぎがくかやうのこゑ耳みみにみちむしゆ
6 の天衆しゆまなこにさへきり宝たからのはちす雨あめふりて柴しば
7 のいほりをうつみさんだんのこゑくわんき歡喜くわんきの涙なみだをもよ
8 ほす也やすてに仏の心にしたかひ聖衆しやうしゆの中にま
9 しはりしゆゆの間に安養あんやうの宝池ほうちにいたり無量むりやう
10 のたのしみをうるなり八功徳はつとく池ちには四色しきの蓮華れんげ

下 62オ

1 ひらきて色色の光をはなち七重宝樹しちじゆうほうしゆには花さ
2 きこのみむすひて聖衆しやうじゆかけにあそひ給ひ鳧雁ふがん

- 3 駕^{あんわう}騫^{せん}さへつりせうちやくきんくごは微妙^{みゆうそんかく}音楽^{おんがく}をと
 4 とのへ琵琶^{ひば}ねうどうばつはきいのしらべをそうす
 5 波^{なみ}の音風^{おんぷう}のこゑまで仏道^{ぶつだう}場進^{ぢやうしん}の妙文^{めうぶん}をとなへ
 6 一切^{さいさうもく}草木^{そうもく}はみな栴檀^{せんたん}の匂^{にお}ひをなせりむかしつたへききし
 7 御法文^{ごほふもん}を直^{ちき}に耳^{みみ}にふれいにしへ観^{くはん}せし御姿^{ごすがた}まのあたり
 8 おかみたてまつり十方^{じふかい}世界^{せかい}に遊行^{ゆぎやう}して三世^{しよぶつ}の諸^{しよ}仏^{ぶつ}
 9 を供養^{くやう}し七世^{しちせい}のおんしよをみちひき有縁^{うえん}無縁^{むえん}を
 10 とふらふ称讚^{せうさん}浄土^{じやうど}経^{きやう}には百千^{ひやくせん}くてい那由他^{なゆた}劫^{こつ}をへ
- 下62ウ
- 1 無量^{りやう}千^{せん}くてい那由他^{なゆた}のしたをもつて一一の舌^{した}のう
 2 へに無量の声^{こゑ}をいたしてほむともほむとも弥陀^{みだつ}の名号^{なごう}
 3 のくときをはほめつくすへからすと申^{まう}けり往生^{わうじやう}要^{よう}
 4 集^{しう}の十楽^{じゆらく}をしるすに百千万^{ひやくせんまん}のたのしみなりとも
 5 十楽^{じゆらく}のうちの一つにはをよふへからすといへりされはあ
 6 やしの舌^{した}のはしにて中中^{しんしん}申^{まう}さん事^{こと}こそをろか
 7 なれかへすかへす弥陀^{みだつ}を念^{ねん}してかはかりめてたき浄土^{じやうど}
 8 へまいり給^{たま}ふへきなり心^{こゝろ}ある人の極楽^{ごくらく}をねかひし事^{こと}
 9 を歌^{うた}にて申^{まう}へし
 10 いかにして蓮^{れん}の花^{はな}にやとりなん世^よをうき葉^はにはすむかひ

- もなし
- 下63オ
- 1 極楽^{ごくらく}の蓮^{れん}の花^{はな}の上にこそ露^{つゆ}のわか身^みはをかまほしけれ
 2 右大臣^{みぎのちじん}かねさねかよめる
 3 花^{はな}はみなあかぬ中^{なか}にもこん世^よまでゆかしき物は蓮^{れん}なりけ
 り
 4 かやうに此僧^{このそう}かたりはてて南無^{なんぶ}西方^{しやうほう}極楽^{ごくらく}世界^{せかい}弥陀^{みだつ}
 5 如来^{らいがう}迎^{いん}引^{いん}接^{せつ}たかへ給^{たま}ふな南無^{なんぶ}九品^{くひん}蓮台^{れんたい}清^{きやう}
 6 浄大海^{じやうだい}衆^{しゆ}如来^{らいがう}とともに迎^{むか}へ給^{たま}へとて夜^よのあく
 7 るとひとしく行方^{ぎやうほう}しらすなりにけりのちにこれ
 8 を思^{おも}ふにひとへに嵯峨^{さが}の釈迦^{しやくか}如来^{らいがう}かりに一人^{ひとり}の僧^{そう}に
 9 現^{げん}し給^{たま}ひてしめし給^{たま}ひけりとしりぬされはまえん
 10 は人の目^めをはまよはせともかけをはしらすわれらも
- 下63ウ
- 1 つとめをこなははうたかひ有^あへからすたとへは金^{かね}をのへて
 2 ふたつのうつわ物^{もの}をつくりてひとつをはしやうしやうにし
 3 てのこひみかけはいよいよひかりをまし今^{いま}ひとつをは
 4 すてをきてきよむる事^{こと}なければひかりなくなりて

5 見るところはへちなれともそのこかねのまことのたいは
6 ひとつなるかことく三世の諸仏三身万徳のくどくは
7 われも人もそなはりたれとも妄想不浄のちにまし
8 はりていよいよ着心をなしてつたなき身となる也
9 仏は此ちりをはらひ給ひて禅定智慧をみかき
10 給へはくぎやう菩提をあらはして一切衆生は我身

下64才

1 なりけりとさととりてわれら衆生をあはれみ給ふ也
2 まことにその実相はたた一なり衆生といひ仏といふは
3 まよへるとさとれるのかはりめなり法性真如のことは
り

4 は十方の仏も一切衆生もくしたれとも妄念にまど
5 はされうたかいの心にとらかされて生死にしつめ
6 り此妄想をとめてわか身の仏性を観すへき
7 なり心さしいたりぬれはじねんに仏と衆生とへたて
8 なき所をさとりしるへし別に仏の子孫なしみな衆
9 生のうちより出給ふことに此観念は女人のすへき
10 事なりそのゆへは女人は難行苦行をも行せず

下64ウ

1 経論聖教をひらき見る事もかたき身なれば成仏
2 のえんすくなきなり心をおこし氣にしたかひてあ
3 るひは一日二日あるひは一月二月もしは一年二年
4 もしは五年十年のあひたも観念をいたさは仏と
5 衆生としやへつなき事をさとりしるへきなりこれ
6 をそまことの仏道修行とは申める観はこれ智
7 恵のつるき欲煩惱のきつなをきる行はこれ禅定
8 の火たちまち生死のさかひをやきうしなふものも也
9 よくよく修行してなかく仏法のたからをまうけ給
10 ふへきなりいま人界をうくるものは宝の山に入

下65才

1 たるかことしあひかまへて手をむなくして三途の
2 古郷に帰る事なかれ

（この間五行分空白）

8 宝物集物語下

〈注〉

上3ウ6 「おこなひ」の「お」朱ミセケチ、右傍朱「を」

上4ウ4ゝ6 振り仮名は、返り点の順に従う。「礼」の左下二点なし。

上5オ3 振り仮名「けす」の「け」は、虫食いで清濁不明。

上5オ7 「そば」の「ば」、濁点朱。

上5ウ1 「そば」の「ば」、濁点朱。

上5ウ4ゝ5 「おもむきて」の「お」朱ミセケチ、右傍朱「を」。

上8ウ4 「わらぢ」の「ぢ」、濁点朱。

上8ウ6 「ざれども」の「ざ」、濁点朱。

上8ウ7ゝ8 「そばなる」の「ば」、濁点朱。

上9オ6 「しやうさん」の「さ」、濁点朱。

上10オ8 「師馳」朱。

上10ウ6 へゆゝ朱。

上10ウ9 「おこたる」の「お」朱ミセケチ、右傍朱「を」。

上11ウ8 「をどり」の「ど」、濁点朱。

上11ウ8 「あがり」の「が」、濁点朱。

上12ウ3 「ぐして」の「ぐ」、濁点朱。

上13オ3 「すつる」の「つる」朱ミセケチ、右傍朱「てつ」。

上13オ7 (記念) 朱。

上15オ7 「給ひてに」の「て」朱ミセケチ。

上15オ10 「おもむく」の「お」朱ミセケチ、右傍朱「を」。

上16ウ4 「そばより」の「ば」、濁点朱。

上16ウ9 「そばや」の「ば」、濁点朱。

上17オ7 「つるで」の「る」朱ミセケチ、右傍朱「い」。「で」

濁点朱。

上19オ6 「をよふ」の「を」朱ミセケチ、右傍朱「お」。

上22オ3 「だいし」の「だ」、墨濁点の上に朱。

上22ウ9 「あぢわひ」の「ぢ」、濁点朱。

上28オ1 「衆人」の「人」ミセケチ、右傍「合」。

上29オ7 「禿」朱。

上30オ4 「せつか」の「か」ミセケチ、右傍「り」。

上30ウ2 「きかす」は補入。

上30ウ8 「大海にも」の「にも」ミセケチ。

上30ウ9 「せばき」の「ば」、濁点朱。

上34ウ9 「むすほられ」の「ら」朱ミセケチ、右傍朱「ほ」。

上35オ9ゝ10 「ひんく」の「ひ」ミセケチ、右傍「と」。

上36オ5 「なんぢに」の「に」補入。

上37オ5 「忍びかたしも」の「も」朱ミセケチ。右傍に朱ある

ものの、当該字虫食いにて判読不能。

上38オ8 「じやうはり」の「じ」、濁点朱。

上40オ10 「かつさ」の「づ」、濁点朱。

上 44 才 7	「じゆず」の「じ」と「ず」、濁点朱。	下 22 ウ 2	「うへし」の「へ」の右傍に小字で「く歟」。
上 44 ウ 8	「袂」朱ミセケチ、右傍に朱「ころも」。「にけり」に朱ミセケチ、右傍に朱「ぬなり」。「衣」に朱ミセケチ、右傍に朱「たもと」。	下 23 ウ 7	「六波羅蜜」の「の」ミセケチ、右傍に「を」。
上 49 ウ 10	「あたつゐに」の「あた」補入。	下 24 才 9	振り仮名「せん」朱。
上 50 才 4	「しほみ」の「ほ」、濁点朱。	下 24 ウ 2	「むすひ」の「ひ」ミセケチ、右傍に「ふ」。
上 50 ウ 8	振り仮名「をんかくは」の「は」ミセケチ。	下 27 ウ 4	「こうけい」朱。
上 51 才	「やすしく仏に」一行補入。	下 28 ウ 2	「とくごう」の「ご」、 「げ」に上書。
下 1 ウ 9	「ことく」の「こ」ミセケチ、右傍に「く」。	下 30 才 1	「発露」「涕泣」朱。
下 3 ウ 6	「あはれ」の右傍に、朱「アツハレ也」。	下 30 才 3	「罪」朱。
下 3 ウ 8	「まづは」の「づ」、濁点朱。	下 31 ウ 9	「あつけ」の「け」ミセケチ、右傍に「め」。
下 5 ウ 10	振り漢字「青蓮」朱。	下 32 ウ 10	「たとへ」の「へ」ミセケチ、右傍に「ひ」。
下 8 才 5	「地獄」の「獄」朱ミセケチ、左傍に「蔵」。	下 41 ウ 5	「蚊虻」朱。
下 8 ウ 9	「のたまへて」の「へ」朱ミセケチ、右傍に「ひ」。	下 51 才 9	「はかと」の「かと」、 「に」に上書。
下 11 ウ 3	振り仮名「しんしつ」極薄。	下 52 才 3	「めいくに」の「に」朱ミセケチ。行の上に「明□歟」。
下 12 ウ 3 へ 4	「ばらもん」の「ば」、濁点朱。	□は「州」か。	
下 18 才 5	振り仮名「じやいん」の「い」、「け」に上書き。	下 57 才 6	「御事」の「事」ミセケチ、右傍に「くるま車歟」。
下 20 才 6	「酒をかめ」の「を」ミセケチ、右傍に「の」。	下 61 才 2	「巨海」は補入。
下 20 才 6	「みるに」、行末左傍に補入。	下 62 才 5	「場進」の右傍に「そう増歟 ちやう」。
		下 63 才 10	「まよはぬ」の「ぬ」ミセケチ、右傍に「せ」。
		下 64 才 8	「子細」の「細」ミセケチ、右傍に「孫」。